

NEDO Technology Commercialization Program 2019 最終審査会

日時

2020年**2月7日(金)**

13:00～17:50(開場12:30)

※発表者との交流会を17:50～18:50で開催します

場所

三井住友銀行東館

ライジング・スクエア3階 SMBCホール

● お問い合わせ ●

株式会社日本総合研究所 NEDO TCP事務局 〒141-0022 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング
Email: info@nedo-tcp.jp TEL: 03-6833-6575 (今川) / 06-6479-5519 (奥田)
申込方法等の詳細は、NEDO TCPウェブページ (https://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100103.html) をご覧ください。



主催: 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
株式会社日本総合研究所
後援: 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)
協力: 株式会社三井住友銀行

開催概要

日時

2020年2月7日(金)13:00～17:50(開場12:30～)

※ポスターセッション兼交流会を17:50～18:50で開催いたします

場所

三井住友銀行東館
ライジング・スクエア3階 SMBCホール
(ポスターセッション兼交流会は3階 ホワイエにて実施)

参加費

無料

プログラム

- 13:00 開会
プログラム紹介
- 13:10 審査員紹介
- 13:15 **ファイナリストによるプレゼンテーション①**
- 14:20 休憩①
- 14:30 **ファイナリストによるプレゼンテーション②**
- 15:35 オーディエンス投票時間
- 15:40 **産官によるベンチャー支援の取組み紹介**
●株式会社三井住友銀行/Crewwの取組み
「オープンイノベーションが当たり前になる世界へ」
●国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
- 15:55 休憩②
- 16:05 **セミファイナリストによるショートピッチ**
- 16:37 **他のプログラム採択者による近況報告**
●トリプル・リガーズ合同会社(2018年度Tokyo Startup Gateway:NEDO賞)
●WillBooster 株式会社 (JST SCORE 2018年度:終了後に起業)
●株式会社 Genics (JST SCORE 2018年度:終了後に起業)
- 16:50 **過去の入賞チーム等によるパネルディスカッション**
●Cosmic Ray Imaging (TCP2018 最優秀賞)
●株式会社ファーマンステーション (2018年度 NEP)
●株式会社ウエルナス (2018年度 NEP)
- 17:15 表彰式
- 17:45 閉会
- 17:50 **ポスターセッション兼交流会(～18:50)**

※1: NEDO Entrepreneurs Program (NEP)

研究開発型ベンチャー企業の立ち上げを目指す起業家候補人材が行う事業化可能性調査を支援するプログラム

※ 調整状況によりプログラム変更の可能性がございます。



国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

NEDO(New Energy and Industrial Technology Development Organization)

- 日本最大級の公的研究開発マネジメント機関
・経済産業省所管・職員数990名(2019年4月1日現在)
- NEDOのミッション
・エネルギー ・地球環境問題の解決 ・産業技術力の強化
- 予算
・1,571億円(2019年度)

NEDOにおける研究開発事業の概要

ナショナルプロジェクト

- 新エネルギー分野
- 電子・情報通信分野
- 省エネルギー分野
- 材料・ナノテクノロジー分野
- 蓄電池・エネルギーシステム分野
- ロボット技術分野
- グリーンコールテクノロジー(CCT)分野
- 機械システム分野 等

テーマ公募型事業

次世代プロジェクトシーズ発掘事業

- NEDO先導研究プログラム

研究開発プロジェクト(ナショナルプロジェクト等)の創出

研究開発型ベンチャーの起業家支援事業

- 研究開発型ベンチャー支援事業

研究開発成果の実用化・事業化支援

- 新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業
- 戦略的省エネルギー技術革新プログラム
- 課題解決型福祉用具実用化開発支援事業 等

シーズ発掘から事業化までシームレスに支援を行うNEDOのプラットフォーム

研究開発成果の実用化・事業化支援事業

- ⇒新技術を具体的に以下の特定新分野の研究開発に生かしたい方
- ・新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業
 - ・戦略的省エネルギー技術革新プログラム
 - ・課題解決型福祉用具実用化開発支援事業
 - ・Connected Industries推進のための協調領域データ共有・AIシステム開発促進事業
 - ・AIチップ開発加速のためのイノベーション推進事業
 - ・国際研究開発/コファンド事業
 - ・ベンチャー企業等による宇宙用部品・コンポーネント開発助成

大学等

中堅・中小企業

ベンチャー

事業化

次世代プロジェクトシーズ発掘事業

- ⇒革新的なエネルギー・環境新技術をお持ちの方
- NEDO先導研究プログラム/
 - ・エネルギー・新技術先導研究プログラム
 - ・未踏チャレンジ2050

大学等

中堅・中小企業

マッチング支援事業

- ⇒ビジネスへのマッチングを促進
- ・マッチングスペース
 - ・金融マッチング
 - ・シリコンバレー研修
 - ・K-NIC
 - ・S-Matching
 - ・ビジネスマッチング

中堅・中小企業

ベンチャー

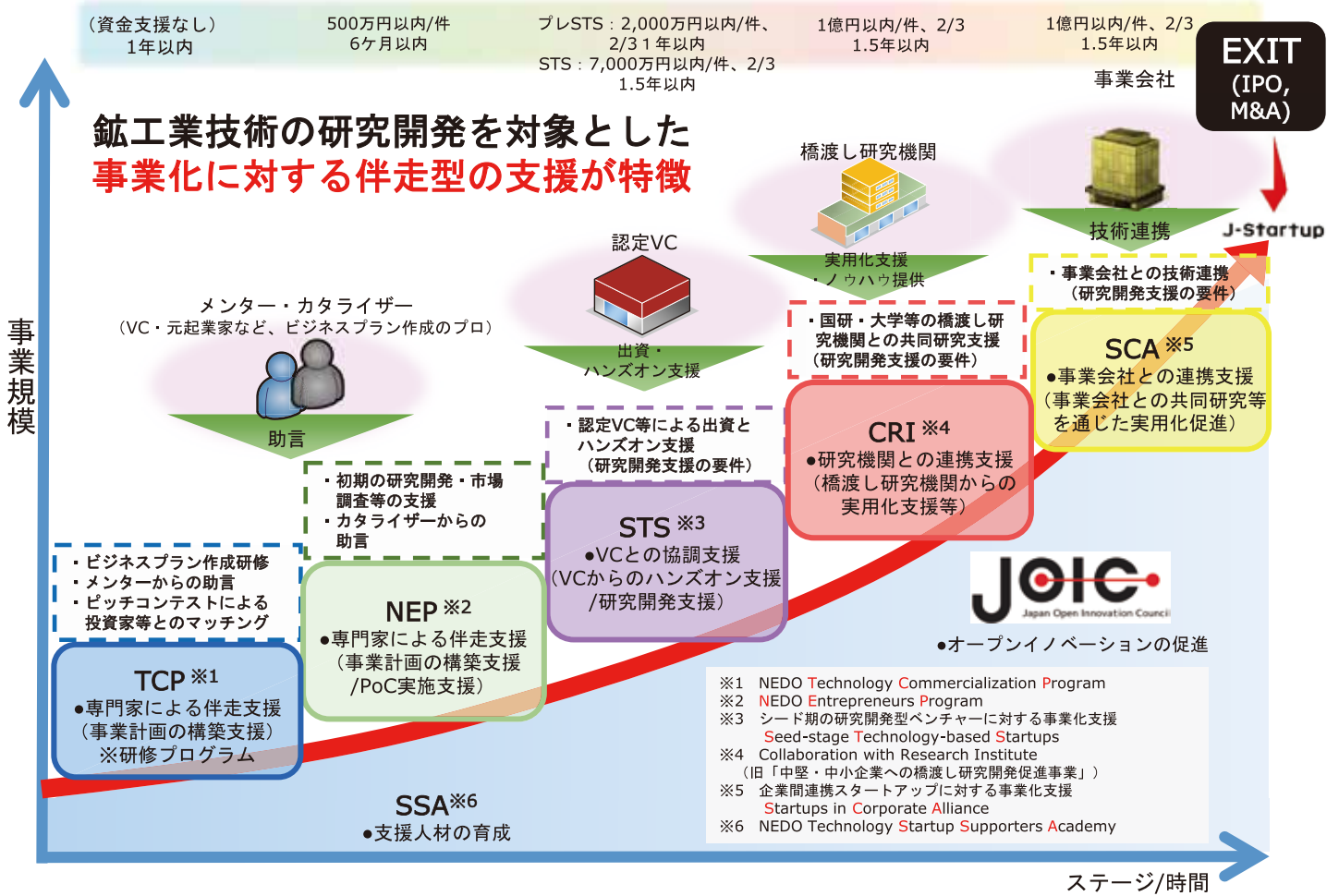
研究開発型ベンチャーの起業家支援事業

- ⇒Tech系ベンチャーの起業をご検討の方
- 研究開発型ベンチャー支援事業
 - 1 NEDO Technology Commercialization Program(TCP)
 - 2 NEDO Entrepreneurs Program(NEP)
 - 3 シード期の研究開発型ベンチャー(STS)への事業化支援
 - 4 橋渡し研究開発促進による実用化支援(CRI)
 - 5 企業間連携スタートアップ(SCA)に対する事業化支援
 - 6 高度専門産業支援人材育成プログラム(SSA)

大学等

ベンチャー

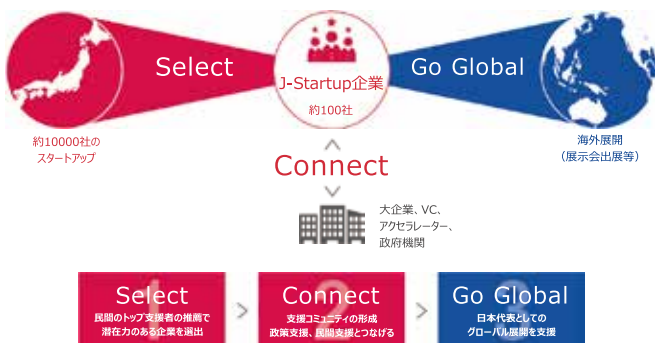
※「中堅・中小企業」「大学等」「ベンチャー」アイコンは、視覚的分類を目的につけており、事業によっては、応募対象を制限しているとは限りません。詳細は各事業をご確認ください。



日本のスタートアップに次の成長を。
世界に次の革新を。

公式ホームページは「J-Startup」で検索!(スマホ対応)
公式Facebookページで随時情報発信中!!

<https://www.j-startup.go.jp/>



日本では約1万社のスタートアップが日々新しい挑戦をしています。しかし、グローバルに活躍する企業はまだ一部。

世界で戦い勝てる企業を作り、世界に新しい革新を提供する。J-Startupは選ばれた企業を官民で集中支援し、成功モデルを創出します。

「ブーム」から「カルチャー」へ。

ここで生まれたヒーローがスタートアップの地位を高め、日本のベンチャーエコシステムをさらに強くします。

現在選定されたStartupは約150社。経済産業省、JETROと共にNEDOも事務局を担っています!是非、「J-Startup」公式ホームページで詳細をご覧ください!

大学、研究機関、ベンチャーの起業家の育成支援プログラム

1 Technology Commercialization Program (TCP)



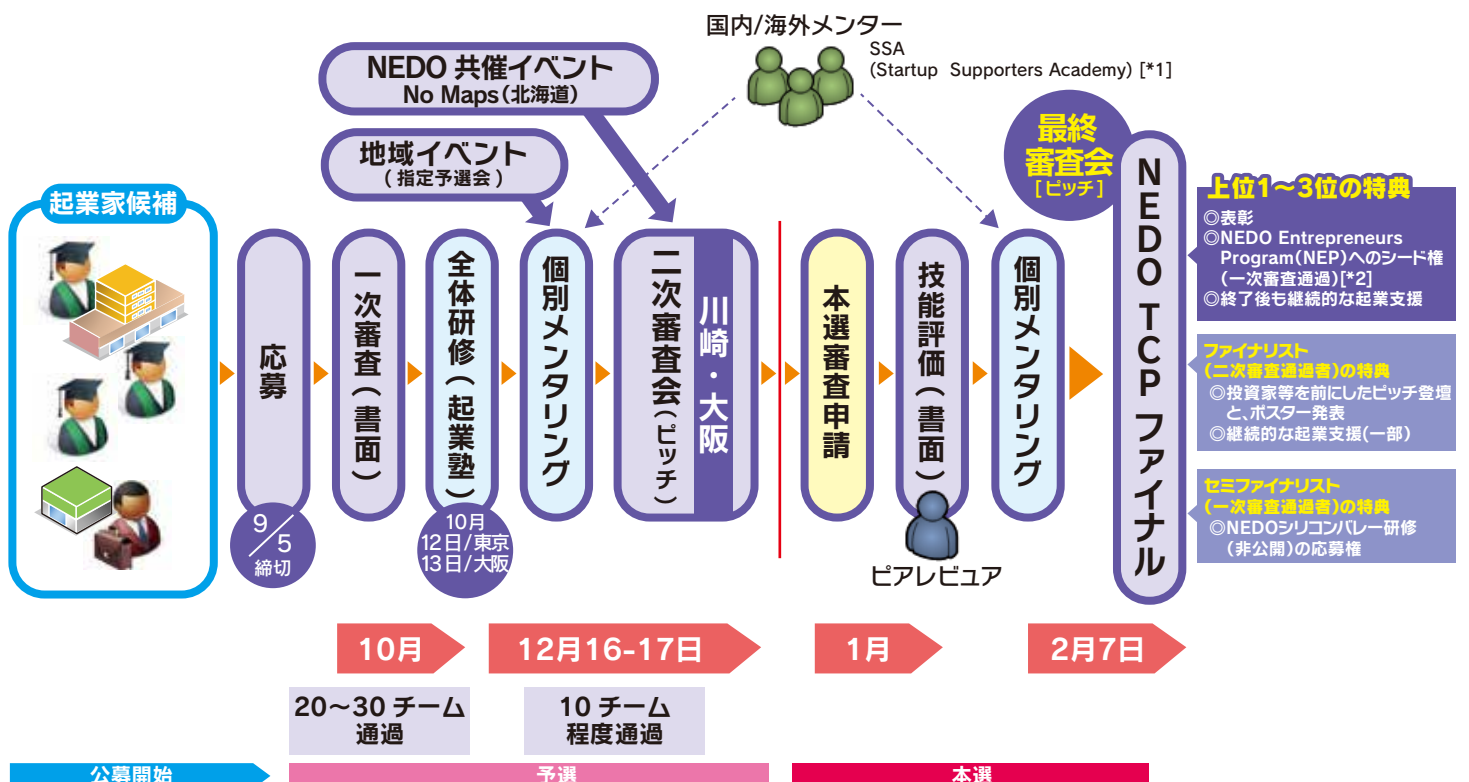
技術シーズの事業化やそのプロセスに関心を有する国内の大学・研究機関等に在籍する
 研究員、大学院生、学部生であって、将来起業することを視野に入れている方を対象に、
 ビジネスプラン作成のための研修と、ビジネスプラン発表の機会を提供します。

NEDO TCP は専用サイト
https://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100103.html

対象者	大学等の技術シーズを用いて起業を目指す研究者等 <small>※公募開始時に起業していないこと (企業・大学等の個人、研究者又は研究チーム)</small>
応募資格	○技術シーズの事業化に関心を有する国内の大学・研究機関に在籍する研究員、大学院生、学部生であって、 将来起業することを視野に入れている方 ○企業における研究や新規事業のスピナウトを考えている方、既にスピナウトした方
募集内容	環境・エネルギー、電子・情報通信、バイオ・ヘルスケア、機械システム、ロボット、材料・ナノテクノロジー 等の「技術」を活用したビジネスプラン
支援内容	国内外の専門家による助言および研修、活動費の直接的な支援はなし（旅費等の支援はあり）
賞	最優秀賞（1件）、優秀賞（1～2件）及びファイナリスト賞（10件程度）を表彰
事業期間	プログラムスケジュールに基づいて実施
対象技術分野	経済産業省所管の鉱工業技術（但し、原子力技術に係るものは除く）

募集期間
 ■2018年度 2018年6月8日～9月14日
 ■2019年度 2019年6月7日～9月5日
 ■2020年度 公募準備中

NEDO TCP2019の流れ



[*1] TCP チームにより、メンターの他に NEDO の支援人材 (SSA:p12 の付録を参照) が同席させていただく場合があります。
 [*2] 予算の状況により変更の可能性がります。

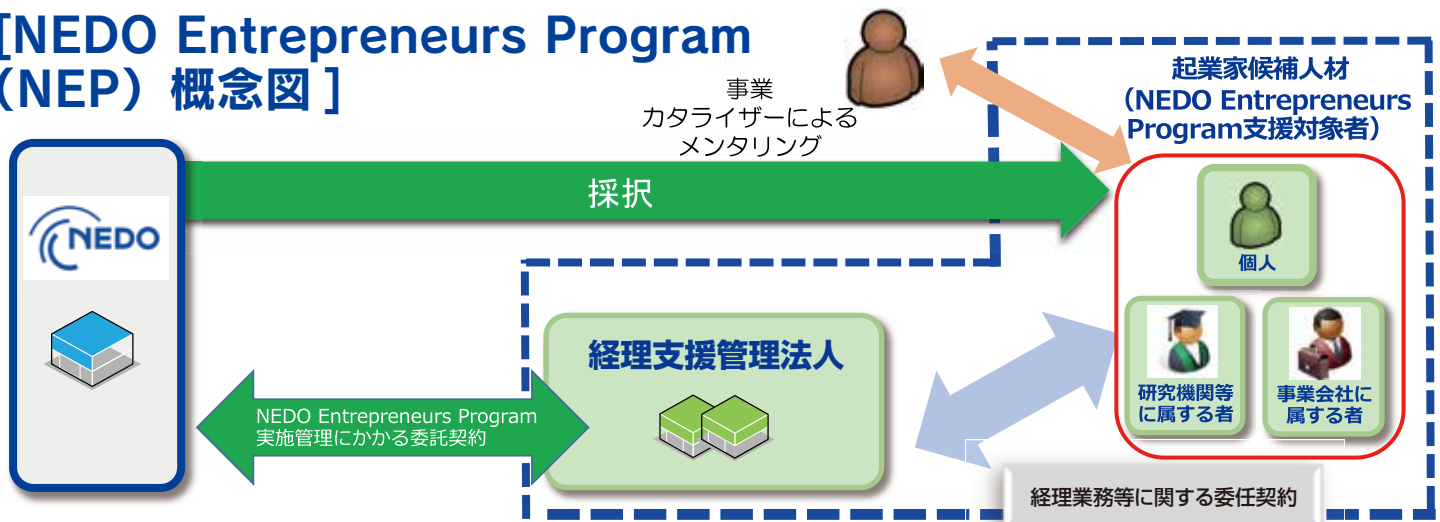
事業化支援人材の伴走支援による起業支援

2 NEDO Entrepreneurs Program (NEP)

技術シーズを活用した事業構想を有する起業家候補人材（個人又は研究機関等や企業等に属する者）に対し、事業化支援人材（事業カタライザー）による指導・助言の機会提供など、研究開発型ベンチャーを立ち上げるための活動を支援します。

対象者	個人事業主、起業を志す企業の社員、起業を志す研究者
事業形態	助成（NEDO 負担：500 万円を上限とした定額助成）
助成金額	原則 500 万円以内（税抜 50 万円以上の機械装置費等、労務費は対象外） ※助成率は 100% ですが、消費税（外税）は自己負担となります。
事業期間	6 ヶ月以内
対象技術分野	経済産業省所管の鉱工業技術（但し、原子力技術に係るものは除く）

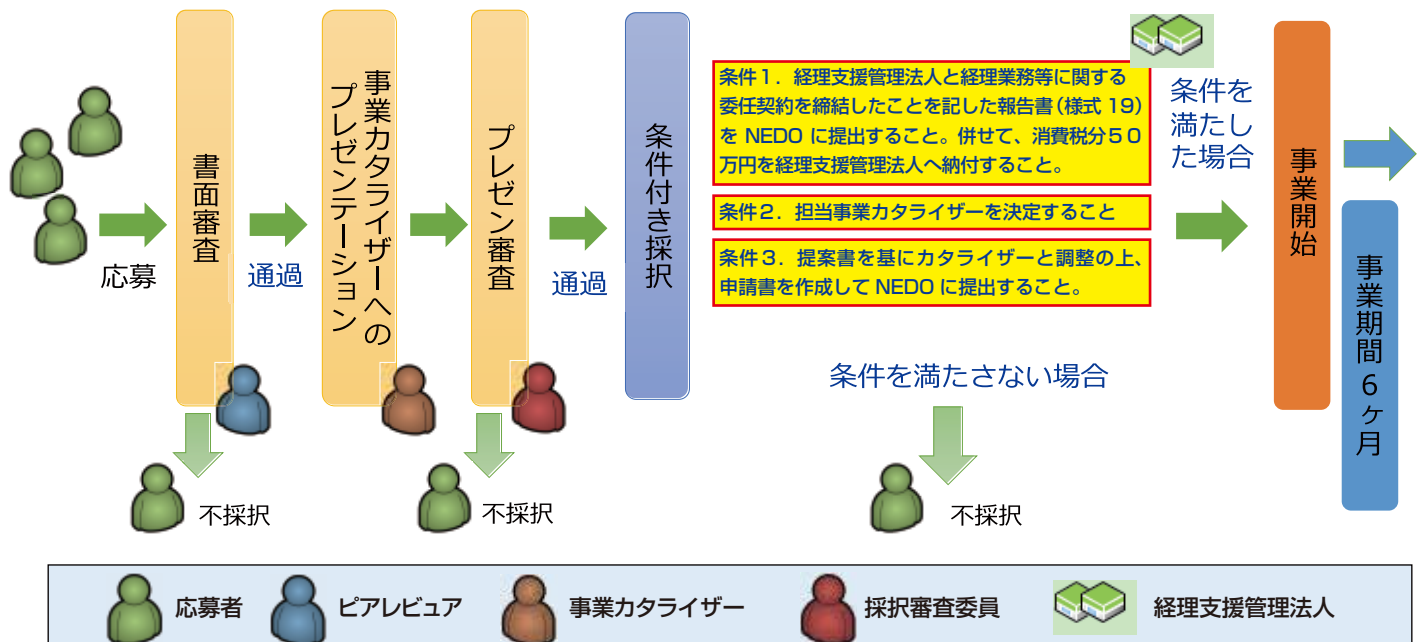
[NEDO Entrepreneurs Program (NEP) 概念図]



- 2018 年度（委託）／予算：1.0 億円／公募（4/24～5/24）採択決定 20 件 / 応募 90 件（4.5 倍）
- 2019 年度（助成）／予算：1.0 億円／公募（3/25～4/25）交付決定 14 件 / 応募 45 件（3.2 倍）
- 2020 年度／予算：未定／公募準備中

2019 年度 NEP（助成）公募～採択の流れ

書面審査、事業カタライザーとのプレマッチング(プレゼンテーション)後、外部専門家等によるプレゼンテーション審査を経て条件付き採択者を決定。採択決定後2カ月以内を目安として、「経理支援管理法人と経理業務等に関する委任契約を締結」、「担当事業カタライザーを決定」並びに「提案書を基にカタライザーと調整の上、申請書を作成してNEDOに提出」をすることで本採択とする。



ベンチャーキャピタル等と連携してシード期のベンチャーを支援

3 シード期の研究開発型ベンチャー (STS) への事業化支援事業

具体的な技術シーズを活用した事業構想を持ち、NEDO が認定したベンチャーキャピタル等が出資を行うシード期の研究開発型ベンチャーに対して、事業化のための助成を行います。

対象者	シード期の研究開発型ベンチャー企業 (STS) (NEDO が認定したベンチャーキャピタル等 (認定 VC) から助成対象費用の 1/3 以上の出資を受けること)
事業形態	助成 (NEDO 負担率: 助成対象費用の 2/3 以下)
助成金額	プレ STS: 2,000 万円以下、STS: 7,000 万円以内 / 事業期間
事業期間	プレ STS: 最大 1 年以内 / STS: 最大 1.5 年以内 交付決定日から 2019 年度末まで (延長の可能性あり)
対象技術分野	経済産業省所管の鉱工業技術 (ただし、原子力技術に関わるものは除く)



STS (Seed-stage Technology-based Startups) の主な要件

- 日本登記された法人であること。
※中小企業基本法等に定められている中小企業者に該当する法人で、みなし大企業に該当しないこと。
- 特定の技術シーズを有し、その実用化開発と事業化を行うシード期の研究開発型ベンチャーであること。
- 認定 VC から助成対象費用の 1/3 以上の出資を公募要領で定める期日以降に受けていること。又は、今後出資が予定されていること。
(出資の意思決定確認書等が必要)
- 新市場、イノベーションを創出しうるものであること。



認定 VC 等の主な要件

- 業としてベンチャー企業への投資機能を有し、STS を支援するハンズオン能力を有する VC 等。(チームによる申請可。)
- 日本国又は外国政府、国立大学法人、地方自治体の出資が入っていない法人であること。
- 国内に STS 等を支援する拠点 (支店も可) を有し、常駐スタッフを配置していること (計画段階も可)。
ただし、常駐スタッフは STS の支援実績、または支援能力を有すること。
<認定期間> 2019 年度まで
ただし STS の支援期間中は当該 STS に対しての権利義務を継続。

認定 VC (2019 年 11 月現在 34 社)

株式会社ゼロワンフースター
株式会社ファストトラックイニシアティブ
株式会社 TNP スレッズオプソライト
SBI インベストメント株式会社
ジェネラルパートナー株式会社
鎌倉インベストメント株式会社
株式会社 MAKOTO キャピタル / 一般社団法人 MAKOTO
株式会社みらい創造機構
株式会社 ABBALab
株式会社広島ベンチャーキャピタル
合同会社ユークレナ SMBC 日興リバネスキャピタル

Beyond Next Ventures 株式会社
Global Catalyst Partners Japan
ハックベンチャーズ株式会社
株式会社 SARR TECH RANCH
株式会社東京大学エッジキャピタル
ウエルインベストメント株式会社 / AZCA, Inc.
DNX Ventures
Expara Ventures .Ltd.
Triple Ring Technologies, Inc. / 日本医療機器開発機構
QB パートナース有責任事業組合
500Startups Japan

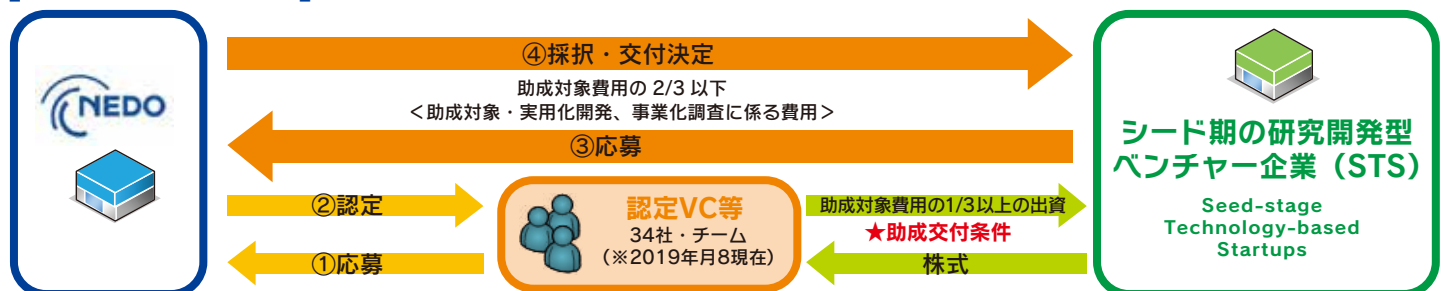
ニッセイ・キャピタル株式会社
株式会社ジャフコ
360ip ジャパン株式会社
Remiges Biopharma Fund GP, Inc.
株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ
D4V 合同会社
グローバル・フレイム株式会社
日本ベンチャーキャピタル株式会社
インキュベイトファンド株式会社
合同会社テックアクセルベンチャーズ
みやこキャピタル株式会社
MedVenture Partners 株式会社

「研究開発型ベンチャーへの事業化支援事業 (STS 事業)」予算額と公募情報

年度	予算	公募情報
2017 年度	15.0 億円	第 1 回公募 (4/3 ~ 5/31) 交付決定 15 件 / 応募 26 件 (1.6 倍) 第 2 回公募 (7/19 ~ 8/21) 交付決定 7 件 / 応募 12 件 (1.7 倍)
2018 年度	8.0 億円	第 1 回公募 (3/19 ~ 5/7) 交付決定 9 件 / 応募 23 件 (2.6 倍) 第 2 回公募 (7/12 ~ 8/31) 交付決定 9 件 / 応募 27 件 (3.0 倍)
2019 年度	6.0 億円	第 1 回公募 (2019/1/25 ~ 2/25) 交付決定 5 件 / 応募 21 件 (4.2 倍) 第 2 回公募 (2019/7/4 ~ 8/23) 交付決定 6 件 / 応募 19 件 (3.2 倍)
2020 年度	未定	公募準備中

●2019 年度の公募情報・公募要領・採択結果等の詳細は、以下でご確認いただけます。
NEDO ホームページ > 公募・調達 > 公募情報 > 分野別情報一覧 > 分野横断的公募事業 平成 31 年度 分野横断的公募事業分野 公募一覧

[STS 事業概念図]



【参考】2019 年度第 1 回公募 交付決定先 (5 社)

株式会社セルージュン	iPS 細胞由来角膜内皮細胞の非臨床有効性試験
株式会社 EmbodyMe	深層生成モデルを用いた次世代コンピュータグラフィックスの開発
BionicM 株式会社	世界初のハイブリッドロボティクス義足 (膝用・足部用) の開発
株式会社 KOALA Tech	生体認証を志向した近赤外有機半導体レーザーダイオードの開発
インスタリム株式会社	AI を用いた自動設計による 3D 義足製造ソリューションの開発

事業会社と共同研究等を行う研究開発型ベンチャーを支援

4 橋渡し研究開発促進による実用化支援（CRI）

研究開発型ベンチャー企業が橋渡し研究機関から技術シーズの移転をうけてビジネスにつなげることや、保有する技術を橋渡し研究機関の能力を活用して迅速かつ着実に実用化することを通じて、自社の技術力向上や生産方法等の革新等を実現することを支援します。加えて、上述のような取組みを支援することにより、橋渡し研究機関が積極的にその機能強化に取り組むことを促進します。

対象者	研究開発型ベンチャー企業 連携する「橋渡し研究機関」と共同開発契約を締結すること
応募要件	共同研究先に「橋渡し研究機関」を含み、「橋渡し研究機関」が研究開発の重要な役割を担うこと。
事業形態	助成（NEDO負担率：助成対象費用の2/3）
助成金額	1億円以内／事業期間
事業期間	約1.5年間
対象技術	新産業の振興のためのイノベーションの創出に資する新規性・革新性の高い実用化開発で経済産業省所管の鉱工業技術（ただし、原子力技術に関わるものは除く）であること。
橋渡し研究機関の要件	<p>国の研究機関、独立行政法人、公設試験研究機関に該当する日本国内に立地する公的研究機関および大学または高等専門学校であって、以下の5つの仕組みを有するまたは構築を計画中の機関</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 橋渡し機能（先進的・革新的技術シーズを事業化につなぐ橋渡し機能）強化の仕組み ② 民間企業からの資金受入の仕組み ③ 産業界のニーズ把握とその組織内活動への反映の仕組み ④ 技術シーズやノウハウを取り入れるための仕組み ⑤ 知的財産権の活用促進の仕組み

「研究開発型ベンチャー支援事業橋渡し研究開発促進（CRI）」予算額と公募情報

2019年度	予算：約1億円	公募時期 2019/4/5～5/10 交付決定 3件 / 応募 30件（10倍）
2020年度	予算：未定	公募準備中

●2020年度の公募情報・公募要領等の詳細は、今後NEDOホームページへ掲載する予定です。
[NEDOホームページ](#)>[公募・調達](#)>[分野別情報一覧](#)>2020年度 分野横断的公募事業分野 公募一覧

【事業概念図】



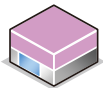
CRI=Collaboration with Research Institute

事業会社と共同研究等を行う研究開発型ベンチャーを支援

5 企業間連携スタートアップ(SCA)に対する事業化支援

具体的な技術シーズを活用した事業構想を持ち、事業会社と共同研究等を行う研究開発型ベンチャーに対して、事業化のための助成を行います。

対象者	企業間連携スタートアップ (SCA) 連携する事業会社と共同開発契約を締結すること
事業形態	助成 (NEDO 負担率: 助成対象費用の 2/3 以下)
助成金額	原則 1 億円以内 / 事業期間
事業期間	約 1.5 年間
対象技術分野	経済産業省所管の鉱工業技術 (但し、原子力技術に係るものは除く)



SCA (Startups in Corporate Alliance) の主な要件

- 具体的な技術シーズを活用した事業構想を持ち、事業会社と共同研究契約等を公募要領で定める期日以降で締結していること。又は、今後締結が予定されていること (締結の意向を確認するための同意書等が必要)。
- 本邦法人であって、事業活動に係る主たる技術開発および意思決定のための点を日本国内に有すること。
※本邦法人未設立及び拠点未設置の場合は、採択後 1 か月以内にそれぞれ設立及び設置すること。
- 中小企業基本法等に定められている中小企業者に該当する法人であって、みなし大企業に該当しないもの。
- 大企業の持分法適用会社ではないこと。
- 事業会社からの出資が 50% 未満で非連結対象であること。
※事業会社の出資による取得株式には、事業会社の投資事業有限組合員としての所有に属する分を含む



共同研究等を行う事業会社の主な要件

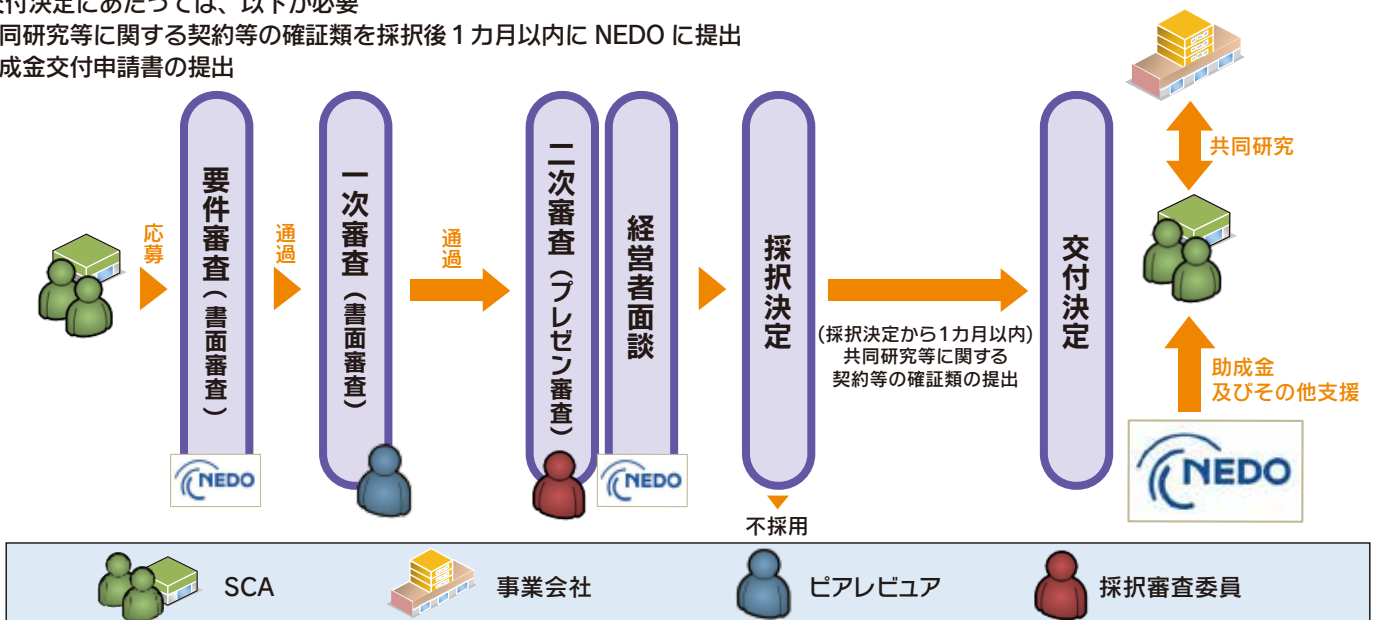
- 本邦法人であること。
(海外法人の場合は、採択日から 1 か月以内に日本法人を設立すること)
- SCA に対する出資による持株比率が、50% 未満かつ SCA を連結対象としない等、実質上 SCA を支配していないとみなせること。
※なお、SCA への出資による取得株式には、事業会社の投資事業有限組合員としての所有に属する分を含む。



2017 年度	予算: 約 6 億円	公募 (10/3 ~ 11/24) 交付決定 12 件 / 応募 72 件 (6 倍)
2018 年度	予算: 約 4 億円	第 1 回公募 (5/15 ~ 6/28) 交付決定 8 件 / 応募 43 件 (5.4 倍) 第 2 回公募 (10/18 ~ 11/22) 交付決定 3 件 / 応募 32 件 (10.7 倍)
2019 年度	予算: 約 1 億円	公募 (5/15 ~ 6/25) 交付決定 3 件 / 応募 27 件 (9.0 倍)
2020 年度	予算: 未定	公募準備中

SCA 公募～交付の流れ

- 提案書を NEDO に提出 (期日までに事業会社から提案書の連携内容に関する同意書を取得し NEDO に提出する必要あり)。
一次審査及び二次審査 (プレゼン審査)・経営者面談を経て、採択・交付決定を行う。
- 交付決定にあたっては、以下が必要
 - ・共同研究等に関する契約等の確認類を採択後 1 か月以内に NEDO に提出
 - ・助成金交付申請書の提出



研究開発型ベンチャー支援の中核的な役割を担う、専門支援人材を輩出

6 高度専門産業支援人材育成プログラム (SSA)

広い知見と高い専門性を持ち、研究開発型ベンチャーの成長を伴走支援できる人材の育成を行う高度専門支援人材育成プログラム「NEDO Technology Startup Supporters Academy (SSA)」を実施します。

対象者	イノベティブな研究開発型ベンチャーの創出支援の現場をリードしていく、またはリードしていくであろう人材、もしくは、今後こうした支援キャリアを目指そうとする若手支援者候補など
対象者例	<ul style="list-style-type: none"> ○全国大学の産学連携・知財本部などの関連教職員・URA、コーディネーター、TLO 役職員、ポストドク等 ○イノベーション・モノづくり支援等を担う自治体部局や公的産業支援機関の担当職員、インキュベーションマネージャー、コーディネーター ○民間企業にてオープンイノベーションや社内発ベンチャー創出に従事する担当で、高度専門性・キャリアを高めたい関係部局の担当者 ○VC 等で、各地の研究機関や公的機関と連携し、シード段階から積極的に技術の目利きや掘り起こしを行い、研究開発型の専門性やキャリアを構築したいキャピタリスト ○上記に準ずる職能の者あるいはベンチャー支援者を志す若手人材など
目的	日本のベンチャー・エコシステムの構成員としての公益的視点、広い知見や高い専門性を持って先端の研究開発型ベンチャーの発掘から成長を伴走支援できる、現場の中核的役割を担う高度専門支援人材、上記のキャリアパスを志向するイノベーション支援人材を、産・学・官・公・民の横串で育成します。
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> [1] 研究開発型ベンチャー支援に必要な、基本的な知識やスキルを身に付ける講義群 [2] 伴走型支援者としてのマインドを培う場の提供 [3] 上記の OJT (NEDO 事業者の支援現場) での実践的なアウトプット機会の提供など
事業期間 (2020 年度)	2020 年 10 月頃～2021 年 2 月頃まで (約4カ月間)

受講者要件等

定員 : 20 名～40 名程度

参加費 : 無料

(ただし、参加に係る交通費等の実費は自己負担)

選考 : 書面審査により受講者を決定します。



後援機関等 (予定)

経済産業省 / (国研) 産業技術総合研究所 / (国研) 科学技術振興機構 / (国研) 理化学研究所
 (国研) 情報通信研究機構 / (国研) 日本医療研究開発機構 / (国研) 宇宙航空研究開発機構
 (国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 / (国研) 物質・材料研究機構 / (国研) 海洋研究開発機構
 (独) 日本貿易振興機構 / (独) 中小企業基盤整備機構 / (独) 情報処理推進機構
 (一財) ベンチャーエンタープライズセンター / (一社) 日本ベンチャーキャピタル協会
 オープンイノベーション・ベンチャー創造協議会ほか

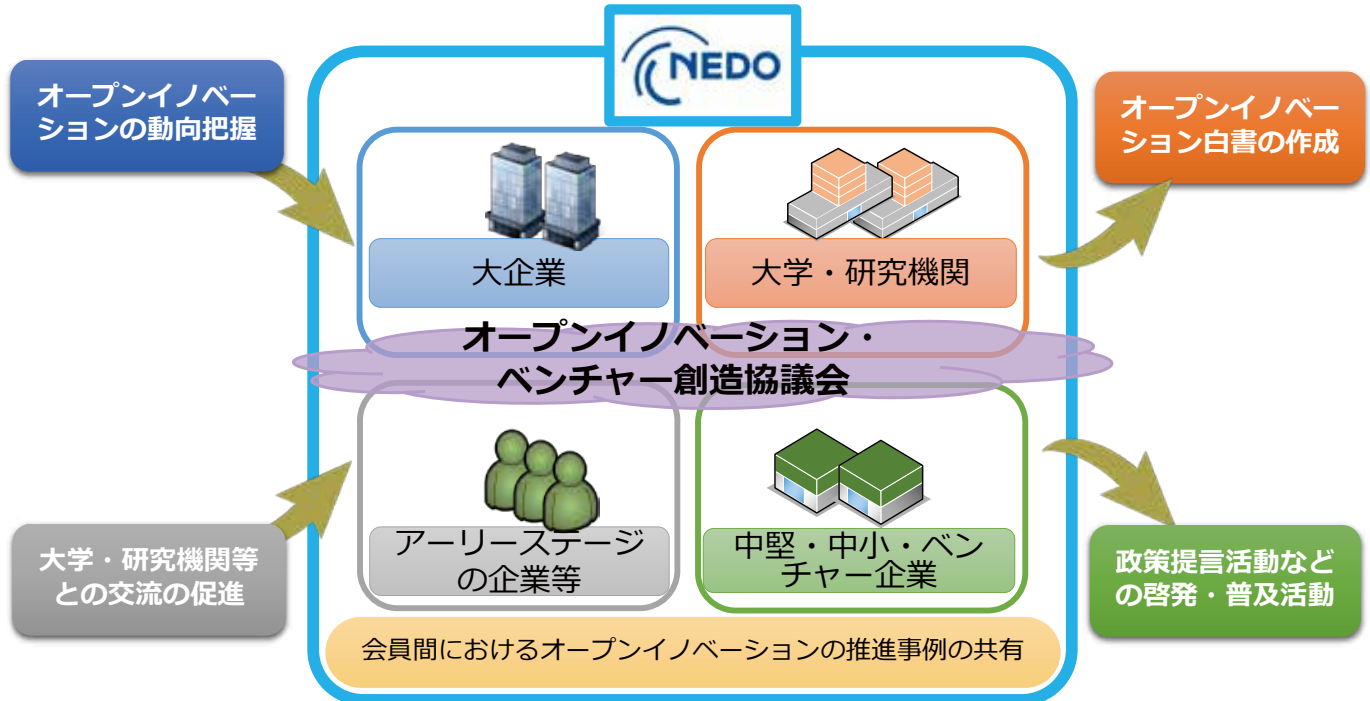
2017 年度 / 募集期間 : 8 月 21 日～9 月 19 日 OJT 参加数 25 名 / 応募 72 名
 2018 年度 / 募集期間 : 8 月 21 日～9 月 20 日 OJT 参加数 41 名 / 応募 85 名
 2019 年度 / 募集時期 : 7 月 4 日～8 月 2 日 OJT 参加者数 31 名 / 応募 64 名
 2020 年度 / 募集準備中

第一線で活躍するベンチャー企業やイノベーションの有識者による研究開発型ベンチャーの創出や支援について必要となる基本的な知識や方法論に関する講義、ワークショップによる支援課題や論点のディスカッション、そして NEDO プログラムならではの研究開発型ベンチャーの“生”の支援現場を体験する OJT 機会によりプログラムを実施します。



- ・民間事業者の「オープンイノベーション」の取組を推進するとともに、「ベンチャー宣言」を実現することにより、我が国産業のイノベーションの創出及び競争力の強化に寄与することを目的として設立。
- ・NEDOイノベーション推進部が事務局を務め、事務局長はNEDO副理事長が担当する。

■設立:2017年3月1日 ■会員数1,546<内訳:企業会員970、大学等の賛助会員576(2019年11月1日現在)>



主催イベント

- ◎JOICセミナー 大規模なセミナーを、これまでに12回（他のイベントと連携を9回）実施済
- ◎ワークショップ 少人数でのワークショップを、これまでに計20回実施済
- ◎NEDOピッチ ベンチャー企業によるショートプレゼン会を原則毎月第4火曜日開催、これまでに33回実施済
2020/1/28、2/25（いずれも予定、内容未定）
- ◎NEDOドリームピッチ 各種展示会等でのショートプレゼンテーションを開催



最新情報は、
公式ホームページにて
随時更新！
“JOIC”で検索を！
！！スマホ対応！！



<https://www.joic.jp/index.html>

オープンイノベーション白書 第二版の発行

我が国におけるオープンイノベーションの取り組みの現状を可視化し広く共有することを目的に、関連するデータを集約し、また、既に試行錯誤を繰り返しながらオープンイノベーションによって一定の成果をあげている企業の事例等をまとめたもの。平成30年6月27日に第二版を発行しました。

<NEDO及びJOICのHPにてPDFファイルを掲載中>

https://www.joic.jp/joic_members/open_innovation_hakusyo

（書籍版は一般財団法人 経済産業調査会より発売中）



NEDOチャンネル (YouTube)

第16回NEDOピッチから、NEDOチャンネル (YouTube) にて各登壇ベンチャーのプレゼンの様子を公開中。

<You Tube “NEDO チャンネル”で検索>

<https://www.youtube.com/channel/UCd40TUB8A9PIdNs-vxF5t8g>



■ マッチング支援事業



米国展開を目指す技術系ベンチャー支援プログラム

Silicon Valley Immersion Program

世界で勝負する起業家が世界中から集まり、またそれを支える非常に厚いエコシステムが存在するシリコンバレーにおいて、そのインナーサークルと連携しながら、世界に羽ばたこうとしている日本の起業家の方々をご支援し、世界に通用するビジネスを生み出していきたいというのが本プログラムの狙いです。



プログラム内容	<ul style="list-style-type: none"> 国内研修（約4日間）：Web上とNEDO本部にて米国展開のためのビジネスモデルとピッチ研修 シリコンバレー研修（約1週間）：企業訪問、投資家との面談、ビジネスエキスパートによるメンタリング、現地投資家、大企業、スタートアップなど約200名の聴衆を集めるイベントにてピッチ登壇など
支援対象	<ul style="list-style-type: none"> 環境・エネルギー、電子・情報通信、IoT、バイオ・ヘルスケア、医療機器、機械システム、航空宇宙、ロボット、材料・ナノテクノロジー等の「技術」を活用するベンチャー企業
支援要件	<ul style="list-style-type: none"> 米国においてもしくはグローバルに事業展開を目指している技術系ベンチャーであること 英語でのプレゼンテーション、コミュニケーションが可能であること（※研修講師、NEDOとの事前面談を実施） NEDOの設定する国内研修及びシリコンバレー研修に原則として全日参加できること 反社会的勢力またはそれに関わる者との関与がないこと（※事前面談の結果を元に研修ベンチャーを審査・選定します。）

【NEDOシリコンバレー事務所】<http://www.nedosvo.org/>

■ マッチング支援事業



イノベーションを創出する起業家支援拠点

Kawasaki-NEDO Innovation Center (K-NIC)

K-NICは、NEDO、川崎市、公益財団法人川崎市産業振興財団の三者連携により、研究開発型ベンチャーと起業家の発掘から支援までをワンストップで行う起業家支援拠点です。



成長分野における独自技術の事業化を目指す起業家、新分野に進出するベンチャーを対象に、各分野の専門家によるアドバイスをはじめ、投資家向けのピッチイベントや、メンバー会員同士の交流会などさまざまな支援メニューを実施します。

〒212-8551 川崎市幸区大宮町1310番
 ミューザ川崎セントラルタワー5階
 （※JR川崎駅西口からベデストリアンデッキで直結）
 TEL:044-201-7020

施設営業時間 13時～21時（最終受付20時）
 休業日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/4）、ビル休館日
 ※ただし、土日祝にイベントが開催される場合がございます。
 ※臨時休業日などがある場合は、HP「NEWS」にてお知らせいたします。

メンバー会員募集中！

以下の条件に該当する方を対象にメンバー会員登録をいたします。

- ・起業したいと考えている方
- ・ベンチャー企業として起業準備又は起業直後の方
- ・第2創業を目指す方
- ・起業家等との交流を希望する方（事業会社、金融機関、投資家等）

※ご来館にあたり事前にHPにございます「登録用紙」をダウンロードいただき、内容をご記入の上、ご持参いただきますとスムーズにご案内ができます！

<https://k-nic.jp/>

最新情報は、
 公式ホームページや
 Facebookにて
 随時更新！
 “K-NIC”で検索を！

！スマホ対応！





各務 茂夫

国立大学法人東京大学 産学協創推進本部イノベーション推進部長 教授

一橋大学商学部卒、スイス IMD 経営学修士 (MBA)、米国ケースウェスタンリザーブ大学経営学博士ボストンコンサルティンググループを経て、コーポレートディレクション (CDI) の設立に参画。2004 年東京大学産学連携本部 教授・事業化推進部長に就任。2013 年から現職。大学発ベンチャー支援、起業家教育等に取り組む。日本ベンチャー学会副会長・理事、日本ベンチャー学会第 1 回松田修一賞受賞 (2015 年)。NPO 法人アイセックジャパン代表理事・会長。
<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>



安部 博文

国立大学法人電気通信大学 産学官連携センター ベンチャー支援部門 特任教授

博士 (経済学)。電気通信大学認定ベンチャー企業支援、ベンチャービジネス論を担当。事業計画を拝見する場合、「誰か・誰に・何を・いくらで・いつ・どこで・どのような方法で提供する話か」、「類似・先行の商品・サービスとの違いと優位性は何か」、「お客様・ユーザにとっての費用対効果は何か」の説明に注意します。これらの項目の説明が出来るかどうか、をチェックポイントにしています。



阿部 浩之

国立研究開発法人国立成育医療研究センター 臨床研究センター知財・産学連携室 室長

大手外資系製薬メーカーほか、医薬品業界において、川上 (研究開発) から川下 (流通・調剤・販売) まで、あらゆる職種に従事。2015 年、国立成育医療研究センター 知財・産学連携室長に就任し、小児製剤開発、産学連携、センター内のシズ発掘およびマッチング企業の探索を推進。2017 年、日本医療研究開発機構臨床研究・治験基盤事業部に出向し、橋渡し研究支援拠点や臨床研究中核病院等においてアカデミア等による革新的な基礎研究の成果を一貫して実用化に繋ぐプログラム等を推進。1986 年、富山医科薬科大学 (現 富山大学) 薬学部薬科学科卒、2013 年、武蔵野大学大学院薬科学研究科博士後期課程修了 (博士 (薬科学))、薬剤師、I Tストラテジスト (経済産業省認定 情報処理技術者レベル 4)。



後藤 吉正

国立研究開発法人科学技術振興機構 理事 博士 (工学、技術経営)

1985 年 カーネギーメロン大学コンピューターサイエンス学科 客員研究員 (1988 年 3 月まで)

2008 年 松下電器産業株式会社 上席理事

2011 年 基準認証イノベーション技術研究組合 理事長

2012 年 国立大学法人名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部 教授

2015 年より現職



田村 真理子

日本ベンチャー学会・事務局長

㈱日本経済新聞社、㈱日経 BP 社を経て、2000 年より日本ベンチャー学会事務局長。早稲田大学アントレプレヌール研究会理事、早稲田大学女子大生起業家交流会代表。経済産業省、文部科学省等政府委員等。主にベンチャー企業や起業家に関する調査・取材を手掛けながら、起業家教育や事業創造論、事業計画、キャリアクリエイト等を早稲田大学、上智大学、事業創造大学院大学等で担当している。

日本ベンチャー学会では 1,200 人の会員を中心に、中小・ベンチャー企業が創出しやすいエコシステムの環境創りに向けた産学官連携の支援活動などを行っている。

※順不同・敬称略



井本 潤一
ニッセイ・キャピタル株式会社 シニアベンチャーキャピタリスト

京都大学大学院工学研究科材料化学専攻修士課程修了。富士フィルム株式会社有機合成化学研究所にて医薬品等の研究開発に従事したのち、Thomson Reutersにて特許・文献情報関連業務に従事。2015年よりニッセイ・キャピタル株式会社にて主に研究開発型ベンチャー企業への投資を担当。投資支援先は20社を超え、9社の社外取締役を兼務。国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)や国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)等の事業プロモーターを務める等、積極的なベンチャー支援に取り組む。



植波 剣吾
Beyond Next Ventures 株式会社 取締役 パートナー

2003年、株式会社ジャフコに入社し、主にIT分野のベンチャー企業への投資に従事。以後、同社において、ファンド募集・設立、法務・コンプライアンス、投資委員会運営、IR、危機管理対応等の業務に従事。12年に渡り、VC業務全般における幅広い経験を有する。2015年、Beyond Next Ventures株式会社の創業に参画。パートナーとして、累計2本150億円弱のファンドを運営し、テクノロジー領域の投資先企業4社の社外役員を務めるほか、ミドル・バックオフィス業務を統括する。



内田 毅彦
株式会社日本医療機器開発機構 代表取締役 CEO

内科・循環器科専門医。ハーバード公衆衛生大学院・ハーバード経営大学院卒業。日本人初の米国食品医薬品局医療機器審査官を務める。外資系医療機器メーカーでの経験も有り、医療機器開発のスペシャリスト。臨床ニーズを常に考えた製品開発を行い、臨床試験のデザインからマーケティングまで幅広いグローバル製品の事業化を行う。また、ビジネススクールで経営も学んでいる。さらに、厚生労働省科学研究費補助金事業の治験推進研究事業の実務責任者を務め、公的事業も経験。平成27年度東京大学大学院薬学系研究科非常勤講師。



各務 茂夫
国立大学法人東京大学 産学協創推進本部イノベーション推進部長 教授

一橋大学商学部卒、スイスIMD経営学修士(MBA)、米国ケースウェスタンリザーブ大学経営学博士ボストンコンサルティンググループを経て、コーポレートディレクション(CDI)の設立に参画。2004年東京大学産学連携本部 教授・事業化推進部長に就任。2013年から現職。大学発ベンチャー支援、起業家教育等に取り組む。日本ベンチャー学会副会長・理事、日本ベンチャー学会第1回松田修一賞受賞(2015年)。NPO法人アイセックジャパン代表理事・会長。
<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>



曽我 弘
株式会社カピオン 代表取締役

新日鉄退社後、1991年-2010年までシリコンバレーに移住。画像圧縮技術開発のベンチャー企業 Eidesign Technologies, Inc. を設立、経営。1996年に Spruce Technologies, Inc. を設立、DVDオーサリングシステムを開発・商品化し、今日のDVD普及の一翼を担う。旗艦商品「DVD Maestro」は最初の顧客が Disney でハリウッドでのテファクト標準になった。最終的に、同社を Apple へ売却。その後 SVJEN (NPO) を設立し、バイオ関連ビジネスや、日米のスタートアップのメンターとして支援活動を行う。2010年末に帰国後、能登左知と(株)カピオンを共同で設立し NEDO と協力してスタートアップ企業支援を行う。2012年 Blue Jay Energy をシリコンバレーに設立、日本の技術をもとにグローバル事業展開を推進。また大学発ベンチャー支援(東大)やメンター活動と並行して、慶応大学リーディング大学院で起業講座を担当(2012~現在)、高校生を対象とした国際起業家育成イベント「GTE@2016イノベーションチャレンジ」を和歌山市で開催。



春田 真
株式会社ベータカタリスト 代表取締役 CEO

1992年4月、株式会社住友銀行に入行。同行退職後、2000年2月株式会社ティー・エヌ・エーに入社、同年9月に取締役 CFO に就任。2008年7月、常務取締役 CFO に就任。2011年6月、取締役会長に就任。DeNAの上場を主導するとともに大手企業とのJV設立や横浜 DeNA ベイスターズの買収等 M&A を推進。2015年4月 株式会社ベータカタリスト設立。代表取締役就任。



松田 一敬
合同会社 SARR 代表執行社員

慶応大学経済学部卒業後、山一証券証券引受部を経て、同社ロンドン現地法人にて中東、アフリカ、東欧諸国等を担当する。その後、国内初の地域密着型ベンチャーキャピタルを設立。2000年6月に札幌 Biz Cafe を設立、サツポロバレーのITベンチャーを支援。地元IT企業の株式公開に繋げる。2000年9月、国立大学発ベンチャー第1号(北海道大学発)の設立に関与する等、大学発ベンチャー支援の国内の草分け。製薬企業向けマイルストーン契約の締結等、知財の事業化の実績を積む。2011年4月に合同会社 SARR を設立。起業家教育、ハイテクスタートアップの支援を行っている。INSEAD(欧州経営大学院、フランス)にてMBA取得、小樽医科大学大学院商学研究科修士課程修了(修士:商学)、北海道大学大学院医学研究科博士課程修了(医学博士)。



東 博暢
株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 主席研究員

大阪府立大学大学院工学研究科(現:電子・数物系専攻)修士課程修了。ベンチャー支援や社会企業家育成支援、ソーシャルメディアの立ち上げを経て、2006年日本総合研究所入社。情報通信分野(ICT)を中心に、PMI、新規事業策定支援、社会実証実験を通じた法制度改正・ガイドライン策定支援等のコンサルティング/イノベーション活動実施している。ICT融合領域として、FinTech、メディカル・ヘルスケア、都市開発(スマートシティ)、サイバーセキュリティ、教育等、幅広く対象としている。近年は、政府や海外技術系シンクタンクやアクセラレーターと連携し、ロボット・AI、バイオ・ライフサイエンス等の科学技術の商業化を推進するオープンイノベーションプログラムを実施し、技術系ベンチャー支援・起業家支援にも取り組む。その他、総務省等の政府機関、自治体の委員、民間団体の理事、外部アドバイザー等も歴任している。

※順不同・敬称略



安達 俊久
グローバルIoTテクノロジーベンチャーズ株式会社 代表取締役社長

富山県生まれ。1975年東京工業大学電気工学科卒業後、伊藤忠商事に入社。産業電子機器部で電子機器の欧米への輸出業務を担当。1982年から1988年まで英国ロンドン駐在し、欧州市場の開拓と拡販に寄与。1990年からは、欧米のハイテクベンチャーの日本市場の高権獲得と関係強化に従事。1995年から2002年まで、伊藤忠テクノソリューションズでビジネス開発部長、事業企画室長を務め、国内外の先端ITベンチャー起業家及びシリコンバレー Sand Hill Road VC との幅広い人脈を構築。2002年から2015年まで、伊藤忠テクノロジーベンチャーズ代表取締役社長として、3本総額211億円のVCファンド運営責任者を務める。2011年から2014年まで、一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会の会長を務め、規制緩和とベンチャー成長戦略の提言、実行に貢献。2010年から2012年まで、法制審議会会社法制部会委員、2014年には金融審議会リスクマネー供給の在り方に関するWG委員を務める。



石倉 大樹
株式会社日本医療機器開発機構 取締役 CBO

医療分野での起業・新規事業開発に特化。自ら創業メンバーとして参画した創業ベンチャー・アキュメンバイオファーマは、日本で初めて大学発の技術を事業化した会社として上市(欧州)に成功。その後は医療ITベンチャー・エムスリーにて、製薬企業及び医療機器メーカーの治験を加速化させるITサービスの新規事業開発をリード。スタンフォード大学経営学修士課程(MBA)留学中には、Medicine XのInnovation Sourcing Teamとして、mHealth及びHealth Techのstartupを投資検討し、Biodesignプログラムも経験。現P5,Inc. 取締役。平成27年度東京大学大学院薬学系研究科非常勤講師。



潮 尚之
ITPC (International Technology Partnership Center) プリンシパル

シリコンバレー及び東京を拠点として、米国の有望なベンチャー企業の発掘と日本進出のサポート、オープンイノベーションを推進する日本企業の海外動向調査やベンチャー企業との協業サポートなど、インターナショナル・ビジネスオペレーションの専門家として活動中。専門分野はオートモーティブ、セキュリティ、画像処理、センサ、デバイス、IoT、AgTechなど。また、NEDO-TCP、III 未来、STERRA Yamanashi、けいはんりサーチコンプレックス及び大阪イノベーションハブなどの産官学連携プロジェクトのメンター、大阪府立大学EDGEプログラム・シリコンバレー代表、東京大学TLOアドバイザー、関西大学SmartFinderプロジェクト・アドバイザー及びJETRO San Francisco 中小企業海外展開現地支援プラットフォーム・コーディネーターなどを担当し、産官学連携推進、大学発技術ベンチャーの事業化及び日本の中小企業の米国進出なども支援。2006年に独立するまでは、松下電器産業(現パナソニック)において、ITS(高度道路交通システム)をはじめとした様々なビジネス・技術分野でのグローバルな事業開発やアライアンスを推進。米国(シリコンバレー及びプリンストン)駐在時には、ベンチャー企業や大学との技術連携推進の責任者を担当。慶応義塾大学文学部人間科学専攻卒。



大木 美代子
Serend プリンシパル

日本IBMでグローバルマーケティングに従事後、私費留学で渡米。ビジネス修士号取得後、シリコンバレーの大小様々なIT企業で、グローバルビジネス開発に携わる。2013年1月に独立、コンサルティング会社Serend(<http://www.serendinc.com>)をスタート。アメリカ、アジアのスタートアップ、中小企業、大企業、アカデミア、政府機関などに対して、機会創出支援、戦略設定、ハンスオンのマーケティング業務のサポートなどを行っている。



大矢 将人
凸版印刷株式会社 経営企画本部フロンティアビジネスセンター戦略投資推進室 課長

2000年東京大学大学院工学系研究科修了。凸版印刷入社。産業資材、医療医薬包材、ディスプレイ用光学部材の研究開発に従事。2010年より、経営企画本部で主に投資評価プロセスの構築・投資管理業務を担当。現在は、同本部にてベンチャー出資や新事業開発支援に取り組んでいる。2017年に国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が実施した研究開発型ベンチャーの支援人材を育成する高度専門支援人材育成プログラム「Technology Startup Supporters Academy (SSA)」を修了。



岡田 朋之
Tortuga Pacific Inc. ビジネス開発担当 VP / WiTricity Corporation エグゼクティブディレクター
JABI (Japan America Business Initiatives) 理事、ナビゲーター

米国モトローラにて携帯電話開発エンジニア、設計開発チームのマネージャーを経て、日本モトローラに赴任。新規R&Dプロジェクトマネージャー、次世代携帯電話技術部長、モトローラジャパンPCS事業部長、常務取締役を経て、米国に帰国。シリコンバレーにて携帯電話OSのスタートアップ、組み込みソフトウェア企業の米国社長兼役員やシリコンバレーベンチャー企業の社外取締役を経験。現在はワイヤレス、ソフトウェア、IoT、半導体関連の技術営業やビジネスコンサルタントとして活動中。シリコンバレーを拠点に、日本のスタートアップ及び中小企業の米国進出支援、大企業のグローバルマネジメント支援を行っている。経済産業省委託事業の始動Next Innovatorメンターも担当。アリゾナ州立大学電子工学科卒



小柴 亮典
株式会社東芝 技術・生産統括部 知的財産室/技術企画室 参事

1996年東京大学大学院工学系研究科を修了し、株式会社東芝に入社。研究員として米国ベンチャーに駐在し、ベンチャー企業のスピード感とM&Aの活発さを体感。現在、知的財産を用いたビジネス価値を最大化する戦略企画業務に従事しながら、オープンイノベーションを活用した社内スタートアップ制度の企画運営を担当。社外の複数のアクセラレーションプログラムのメンターも務める。2017年度国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が実施した研究開発型ベンチャーの支援人材を育成する高度専門支援人材育成プログラム「Technology Startup Supporters Academy (SSA)」を修了。



三枝 裕和
S.A.I&Company LLP 代表パートナー株式会社/サエグサコオート工業 代表取締役

東京大学大学院経済学研究科(企業・市場専攻)修士課程修了。株式会社日本総合研究所やPwCアドバイザー合同会社で経営戦略立案、新規事業開発、事業再生など幅広くコンサルティングを経験した後、リクルートグループに入社。Webマーケティングの新規事業戦略担当マネージャーとして事業を推進。現在はS.A.I&Company LLPを立ち上げ、コンサルティングやベンチャー企業への出資・育成を手掛けながら、家業であるサエグサコオート工業を二代目として引き継ぎ、経営革新に日々取り組んでいる。



坂本 大
パートナー ベナモー・グローバル・ベンチャーズ

30年以上の駐米経験を通して、環太平洋地域における事業戦略構築、ベンチャー投資、ビジネスインキュベーション、クロスボーダーM&A事業提携などに取り組む。NEDCのグループヴァイスプレジデントとして、ITサービス分野のコーポレートベンチャーファンド設立などの業務に従事。Niteo パートナース社役員、オープングループ社 役員、エンタープライズネットワーク、ビエイントシステム社の役員、そしてサステイナブルシリコンバレー(NPO)の会長を歴任。現在3Comやバームコンピューティング社を創業したシリコンバレーのベテラン起業家であるエリック・ベナモーが率いるベナモー・グローバル・ベンチャーズのパートナー、ベイエンジェルズのボードアドバイザーをはじめ日本企業や米国スタートアップの顧問を務めながらシリコンバレーにてベンチャー投資やスタートアップの事業支援に従事。また、ビジネス以外の面でハーバードビジネススクール北加州協会のボードメンバーとして社会貢献活動を行っている。



瀬川 秀樹 クリエイブル 代表

(株) リコーに 32 年半勤め、光ディスクの精密加工技術者、光ディスクの国際標準化委員会 (ISO) の日本代表団メンバー、技術企画、シリコンバレーにおける CVC(Corporate Venture Capital) と新規事業の立ち上げ/撤退、新規事業開発センター副所長、未来技術総合研究センター所長などを歴任。常に新しいコトや多くの新規事業の立ち上げに挑戦し続けてきた。近年では、これからの世界にとって非常に重要である BOP(Base of the Pyramid(世界の貧困層)) の project を立ち上げ、インドの農村部での活動も行って来た。2014 年 9 月に (株) リコーを退職し、「新規事業のコンサルティング」「若手育成」などを行う Creable(クリエイブル) を開設。事業戦略策定のメンタリングや多くの講演・研修・Workshop 等を手掛けている。



竹居 邦彦 A Tech Ventures 株式会社 代表取締役

1986 年中央大学経済学部卒業、青山学院大学国際ビジネス専攻・ファイナンス 課程終了、2001 年より独立系ベンチャーキャピタルでインベストメントマネージャーとしてハズオン型投資業務に従事。ダブルスコープ株式会社 (WS) は 2005 年リチウムイオンバッテリー用セレーターの開発・製造を目的に設立。WS は投資先の 1 社、会社設立と同時に代表取締役に就任。WS は 2011 年 12 月東証マザーズ上場、2012 年 3 月より取締役・CFO に就任、2017 年 3 月退任。2017 年 A Tech Ventures 株式会社を設立と同時に代表取締役に就任、DeepTech 領域のベンチャー企業への投資、コンサルティングなどを行っている。投資の経験と実際にベンチャー企業を経営し投資された経験を持つのが特徴、投資した金額・投資された金額の累計は 400 億円を超える。マイクロ波化学株式会社監査役、千葉大学工学部修士コース：ベンチャ論非常勤講師



田所 雅之 ベシック チーフストラテジーオフィサー ユニコンファーム CEO

これまで日本と米国シリコンバレーで合計 5 社を起業してきたリアルアントレプレナー。米国シリコンバレーのベンチャーキャピタルのベンチャーパートナーを務めた。Pioneers Asia というグローバルスタートアップイベントのスタートアップ責任者を務めるなど、これまで 2000 社以上の世界中のスタートアップを評価してきた。現在は、国内外のスタートアップ数社の戦略アドバイザーやボードメンバーを務めながら、日本最大級のウェブマーケティング会社 ベシックの Chief Strategic Officer を務めながら、事業創造会社のブルーミングパートナーズの Chief Strategic Officer も務める。2017 年にスタートアップ支援会社である Unicorn Farm を立ち上げた。世界で累計 7 万シェアされたスライド "Startup Science"、発売後、3部門 (経営、起業、イノベーション) で 42 週連続ベストセラー 1 位 (2017 年 11 月 2 日~2018 年 8 月 15 日) になった書籍 "起業の科学 スタートアップサイエンス" の著者である。



津嶋 辰郎 株式会社インディージャパン代表取締役 マネージングディレクター

大阪府立大学航空宇宙工学修士。小学校時代に少年剣士として日本一を達成。大学時には人形飛行機チームを創設し、鳥人間コンテストでは 2 度の優勝と日本記録樹立を果たす。その後、レーシングカーコンストラクターである童夢に参画し空力デザイナーとしてシリーズチャンピオンを獲得。半導体製造装置ベンチャーのスタートアップメンバーとして事業立ち上げを先導の後、iTD コンサルティングに入社。国内大手メーカーの新規事業立ち上げ支援、新製品開発支援など多数実績を持つ。現在はクレイトン・クリステンセン教授設立の INNOSIGHT の日本唯一のパートナーでもある INDEE Japan を設立し大手企業における新規事業立ち上げを支援。またアクセラレーションプログラム ZENTECH DOJO を設立し、社会的に意義のあるハードコアテクノロジーに注目したアクセラレーションを行っている。不確実性の高い事業立ち上げプロセスを分かり易い体系で伝えるだけでなく、それに不可欠なマインドセット、哲学および当事者の思いを重視するスタイル。理論はあくまで共通言語、実践こそが価値を生み出すと考える、自らもゼロイチの世界に最大の価値を感じる起業家である。



中嶋 泰雄 特定非営利活動法人 産業技術活用センター 監事

東北大学研究推進本部特任准教授。2013 年から東北大学にて東京大学・京都大学・大阪大学・東北大学の技術シーズに特化したテクノロジーベンチャー育成を目指す新たな官民ファンド (文部科学省大学出資事業) の企画制度化を担当。それ以前は、日立製作所のコーポレートベンチャーキャピタルにて、ベンチャーキャピタル子会社を設立し、パートナーとして IT、材料デバイス分野等に投資。スタートアップから上場ベンチャーの投資先企業の運営やアライアンス構築など事業開発をハズオン支援。日立グループで事業やシステム企画、PMI 等。東京大学大学院工学系研究科テクノロジーマネジメントコース派遣。経済産業省のベンチャー関連の委員、中小・ベンチャー企業支援や技術移転の団体などのアドバイザー等として、オープンイノベーション、エコシステム構築、起業家支援、教育等を推進。法政大学学卒。



野口 昌克 株式会社 日本医療機器開発機構 事業開発シニアディレクター

前職は米アポット社日本人およびシンガポール法人で勤務。診断薬・機器、医薬品のプロダクトマーケティング及び、医療 IT のアジアパシフィックのエリアマーケティングを担当。アジアで 15 名が選出された同社 Asia Management Development Program に唯一の日本人として選ばれた。前々職のドリームインキュベータでは、産学連携、技術系スタートアップの支援、大企業の新規事業実行支援の他、官公庁大型プロジェクトを担当。京大大学院理学部卒。同大学院博士 (生命科学) 修了。日本学術振興会特別研究員 (DC2) として、神経難病の基礎研究にも従事。2014 年神奈川県保健医療計画推進会議公募委員
医薬品、診断薬、機器開発のプロジェクトマネジメント業務担当



萩原 惇允 SyntheticGestalt Ltd. Co-Founder & COO

京都工芸繊維大学 (工学) 卒業後、Object of Null を創業、代表取締役に就任。大手企業の研究開発機関 (R&D) 向けのコンセプト設計 (バイオ、人工知能、自動運転など) を担当。法政大学 キャリアデザイン学部 産業文化論 及び Apple Japan 本社 社内向け特別講義「Creative Salon」にて特別講師を務めた。2017 年 NEDO「Technology Startup Supporters Academy(SSA)」を修了。2018 年より内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第 2 期 スマートバイオ産業・農業基盤技術担当 戦略コーディネータを務める。



齋藤 和紀 エクスポネンシャル・ジャパン社代表取締役/エン・ジャパン社社外取締役

早稲田大学卒、同大学院ファイナンス研究科修了。2017 年からシンギュラリティユニバーシティ・グローバルインパクトチャレンジを主催。金融庁職員、石油化学メーカーの経理部長を経た後、ベンチャー支援に従事。経営者に寄り添い、事業計画策定から資金調達のリードなど、成長期にあるベンチャーのサポートや過渡期にある大企業へのアドバイザーをいくつか、自らも経営者として様々なチャレンジを仕掛ける。エクスポネンシャル・ジャパン社代表取締役、エン・ジャパン社社外取締役、Spectee 社 CFO、iROBOTICS 社 CFO、Sabrewing Aircraft 社 Director 等。(www.kazunorisaito.com)
主な著書「シンギュラリティ・ビジネス (幻冬舎) / 「エクスポネンシャル思考」(大和書房)



秦 充洋 株式会社ミレニアムパートナーズ 代表取締役

ボストンコンサルティンググループ (BCG) にてプロジェクトマネージャーとして通信、電力、自動車など幅広いプロジェクトを指揮、また起業家としてベンチャー企業の創業・経営・上場経験を持つ。現在は起業家育成・大企業の新規事業支援など、幅広く活躍。一橋大学大学院 MBA コース (HMB) 講師、グロービス経営大学院講師。著書「プロ直伝 / 成功する事業計画書のつくり方」(ナツメ社、2015 年)



林 光洋
株式会社ベータカタリスト 取締役

1994年4月、藤田観光株式会社に入社。2003年12月に株式会社ティール・エヌ・イーに入社。子会社社長を経て、2007年執行役員 EC 事業本部長に就任。大手企業との JV 設立や協業を手がけ黒字化まで推進。2013年3月に同社を退社後、ベンチャーや大手企業の各種プロジェクトを支援。2015年4月株式会社ベータカタリスト取締役に就任。



廣川 克也
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスインキュベーションマネージャー
財団法人 SFC フォーラム事務局長 / SFC フォーラムファンド ファンドマネージャー

1993年上智大学経済学部卒業。同年住友銀行入行。1998年通商産業省出向、債務保証審査事業、全国新規事業発展基盤調査事業、起業家精神涵養教材開発事業等に従事。2000年7月銀行復帰、成長企業取引推進担当となり、ベンチャー企業、株式公開志向企業に対する将来性評価による融資業務を担当。2004年1月同行退職、同年2月より北海道大学知的財産本部着任。2005年12月より慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスインキュベーションマネージャーとして着任、起業家に対する事業計画作成、資金調達、販路拡大支援等を実施。2008年4月より KIEP 研究コンソーシアム事務局長を兼任。海外学生ビジネスコンテストにアドバイザーとして参加。2009年、2010年には GlobalTic@台湾でアジア最優秀賞、2009年 I2P Global Competition ではチームを世界一に導く。2012年より財団法人 SFC フォーラム設立、事務局長就任。2016年より SFC フォーラムファンド ファンドマネージャー就任。



本藤 孝
QB Capital 代表パートナー / FGC 代表パートナー

外資系大手コンサルティング会社にて、IT及びマネージメントコンサルティングに従事し、数々のプロジェクトに携わる。その後、大手ベンチャーキャピタルにてヨーロッパ、イスラエルへのスタートアップ投資を行う事業部の立ち上げメンバーとして参画する。フランスのベンチャーキャピタルへの出向などを始め、数々のスタートアップ投資を実施し独立。ベンチャーキャピタルの FGC を創設し、55 百万ドル (約 65 億円) のファンドを組成。同社の代表パートナーに就任し、国内外への投資に関わり、投資先の取締役に就任。会社設立以前から相談を受けるなど徹底したハンズオンを実施。シード段階からの出資も手掛け、投資先数社のファウンダーメンバーとして創業し経営に参画。主七九州の大学関連の案件 (共同開発を含む)、及び九州出身者など九州に関連した案件に投資を行う QB キャピタルを創設し、QB キャピタルの代表パートナーに就任。30 億円のファンドを組成した。15 年以上にわたりスタートアップへの投資を行っている。Eastern Michigan University BBA in Marketing 卒 同大 MBA in Finance 修了



前田 信敏
NV Ventures 株式会社 代表取締役社長

早稲田大学政治経済学部経済学科卒業、早稲田大学大学院商学研究科 ビジネス専攻修了 (MBA)。大和企業投資㈱、ウエルインバストメント㈱勤務を経て、2019 年 NV Ventures ㈱を設立。文部科学省・大学発新産業創出拠点プロジェクト (現科学技術振興機構・大学発新産業創出プログラム) 事業プロモーター、新エネルギー・産業技術総合開発機構事業カタライザー、内閣府技術委員・アドバイザー等を歴任。大学発を中心とする技術系ベンチャー企業の支援に注力している。自己 PR 「大学発ベンチャー企業をはじめとする、高い技術力や斬新なビジネスモデルをもつ、シード・アーリーステージのベンチャー企業に対する事業支援を長年行なっています。ベンチャー企業の良きパートナーとして、グローバルな成長に少しでも貢献したいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。」



三木 寛文
MK Management, Inc. 代表取締役

早稲田大学商学部卒業。モバイルインターネット領域の成長ベンチャー数社において、約 15 年の事業開発経験を持つ。特に、GREE 株式会社では初期メンバーとして入社、GREE モバイル化、大手通信事業者や各種コンテンツ企業との提携、広告宣伝部やゲームプラットフォーム事業の立ち上げ、中国事業統括など、数多くの新規事業開発、提携案件を担当する。現在はインターネット領域全般のベンチャー支援を手がけ、数十社の経営アドバイザーを歴任。事業開発や営業戦略策定、資金調達アドバイス、人事組織設計のサポート、提携先の紹介や採用支援などをハンズオンで行う。また、Digital Health Meetup アドバイザーとして、医療 / ヘルスケア領域の技術ベンチャーのビジネス支援も行う。



南方 郁夫
クラウド・テン株式会社 代表取締役

大阪大学 基礎工学部 情報工学研究科修了。バナソニックで約 30 年間勤務。その間、本社 R&D 部門においてソフトウェアの研究・開発の責任者としてパソコン、EWS、ワープロ、デジタル TV、携帯電話などの事業立ち上げを主導。また、国際標準化、コンソーシアムの創設やボードメンバーの経験も多数 (DLNA, CE Linux Forum, Java Community Process, Marlin DRM など) 過去 3 回、合計 8 年間にわたってシリコンバレーでの駐在経験。①UC パークレー EECs 客員研究員②パークレーでの人脈がきっかけとなってシリコンバレーのスタートアップと EWS 向けソフトウェアの共同開発③米国バナソニック R&D 会社のプレジデント。その間に、シリコンバレーでクラウドを活用したオンラインゲーミング事業を行う社内ベンチャーを起業 2011 年末にバナソニックを退職してクラウド・テン株式会社を創業。シリコンバレーの経験と人脈を活かして日本企業の新規事業創出やシリコンバレーの企業の日本戦略のコンサルティングを行うとともに、独自のクラウドサービスの開発、事業化に取り組んでいる。



八重樫 馨
i-BuC Ltd. President & CEO

ドイツ系化学企業、Hoechst (現 医薬部門は、Sanofi 社、スペシャリティケミカルは、Clariant 社、基礎化学は、Celanese 社) で、新事業開発、半導体製造用関連機器事業の立ち上げ、日本企業との共同事業設立等を行う。リチウム電池用セパレーター、人工心臓用中空糸、水処理用脱気膜の 3 事業部門を持つ Celgard Inc. (Polypore International Inc. を経て、旭化成に売却。) のマネージメント・チームとして経営に参画、日本法人セルガード株式会社代表取締役社長兼務。同グループの世界最大の鉛電池用セパレーター企業 Daramic Inc. のアジア・太平洋統括や、同グループ中国現地法人 Battery Separator Shanghai Co., Ltd. の取締役を兼務。シリコンバレーのナノテック企業 NanoGram Corporation の上席副社長および同日本法人ナノグラム株式会社の代表取締役社長に就任。同社の帯人株式会社への売却後、帯人グループのメンバーとして同社の経営に携わる。事業創出やベンチャー起業支援による産業創成の為に、仲間と共にアイ・バック株式会社を設立する。現、同社代表取締役社長、東京農工大学非常勤講師。



山本 辰久
ボーダレス・プランニング株式会社 代表取締役

京都大学大学院工学研究科交通土木工学専攻修了。ボストン大学大学院都市計画学科修了 (MCP)。横浜市役所都市計画局勤務の後、株式会社日本総合研究所総合研究部門で公的機関の主要計画立案・改革支援、企業の中長期経営計画策定などとともに、ビジネスモデル特許申請も経験。この間、神戸大学大学院経営学研究科助教授として出向。2011 年に起業し、境界にこだわらないボーダレスな視点から、医療、運輸、食品、製造、環境関連業界をはじめ、経営幹部・管理職らを対象とした人材育成・教育研修とともに、事業計画立案支援、海外進出支援にも取り組む。環境 NGO カーボンシンク理事。

※順不同・敬称略

ファイナリストチーム資料

NEDO TCP 2019 ファイナリストチーム一覧

Microbialchem	20
FlexibleSens	21
BacSens	22
TTT (Toxicity-testing using T-iPS cells)	23
NeuroTech	24
株式会社カーム・ラーナ	25
SensinGood Lab.	26
チーム Weavgent	27
GramEye	28
SiB2018 Team-IJ	29
株式会社 RAINBOW	30
NanoEX	31



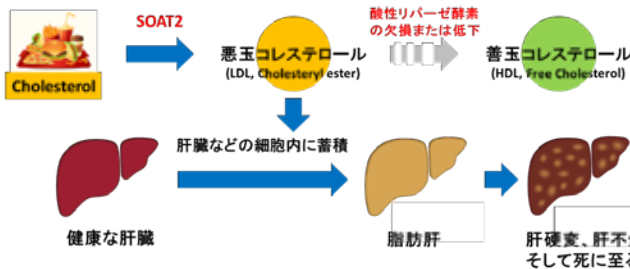
Microbialchem

事業プラン名	世界初で唯一のSOAT2 選択的阻害剤による新規オーファンドラッグの開発
代表者	細田 莞爾
連絡先	hosodak@pharm.kitasato-u.ac.jp

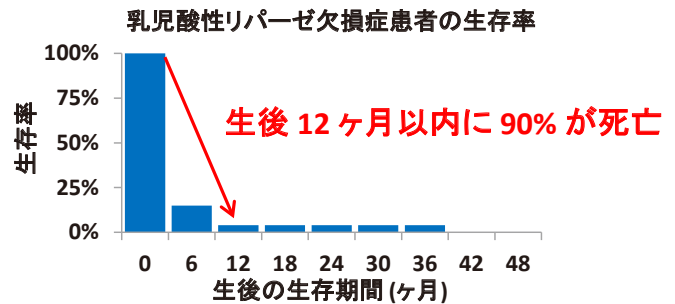
Problem 酸性リパーゼ欠損症 (LAL-D)

世界で患者数 19,000 人未満の希少疾患
 指定難病 19 ライソゾーム病の一種
 承認薬は 1 剤のみ (未だ 30% 以上は助からない)

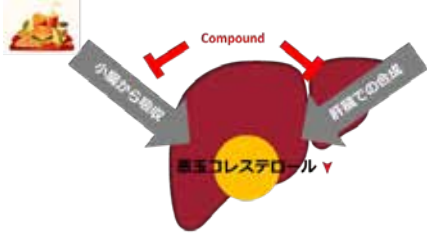
● 酸性リパーゼ欠損症とは



1. 悪玉コレステロールを分解する酵素である酸性リパーゼが遺伝子変異によって欠損または低下することで発症
2. 悪玉コレステロールが分解できないので肝臓などに過剰に蓄積
3. その結果、脂肪肝や肝硬変を発症し、最終的には肝不全などの多臓器不全により死亡

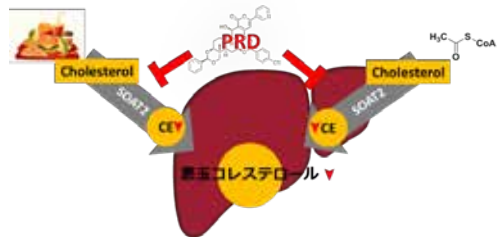


Solution 悪玉コレステロールの蓄積を阻害



悪玉コレステロールは吸収と合成の 2 つの経路から作られる
 どちらも阻害できれば強力に悪玉コレステロールの蓄積を阻害できる!!
 そこで吸収と合成のどちらの経路でも重要な働きをしている酵素 SOAT2 に注目
 SOAT2 を阻害できれば強力に悪玉コレステロールの蓄積を阻害できる!!

Technology 世界初で唯一の SOAT2 選択的阻害剤 PRD 類



世界初で唯一の SOAT2 選択的化合物ピリピロペン A を発見
 200 種類以上の誘導体展開を行い、
 高活性、高選択性、高代謝安定性なピリピロペン A 誘導体 PRD を創製
 物質特許: 2011年 JP, US, EU等取得済

サルを含む動物試験を実施し非臨床 POC を取得済

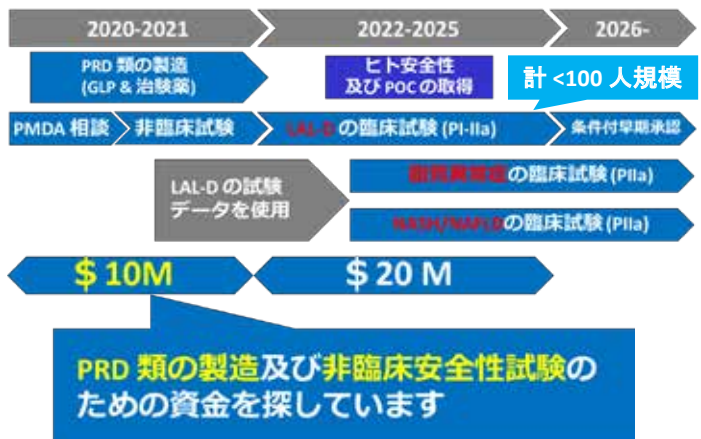
Market

LAL-D 患者数世界で 19,000 人未満 (Rare disease) 承認薬 1 つのみ (高い医療ニーズ)	\$380M (2017)	CAGR: 10.8%	\$954M (2025)
NASH/NAFLD 患者数 2,000 万人 (日本) 承認薬無し (非常に高い医療ニーズ)	\$1.8B (2017)	CAGR: 38.4%	\$21.5B (2025)
脂質異常症 患者数 3,000 万人 (日本) 多くの承認薬 (充足した医療ニーズ)	\$19.3B (2016)	CAGR: 2.5%	\$22.6B (2022)

Competition

Drugs	投与経路	投与量
PRDs	経口	毎日家で飲むだけ
カヌマ	点滴静注	1-2 週間に 1 度 病院で 2 時間以上

Development Roadmap



Startup 起業にあたり、開発メンバー (CRO コントローラー) も募集中!!

FlexibleSens

事業プラン名	熱中症予防・対策を促進するパッチセンサ
代表者	竹井 邦晴
連絡先	takei@pe.osakafu-u.ac.jp

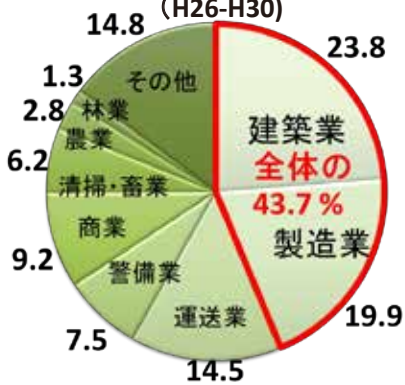
HealthcarePatch+HS
FlexibleSens



多データ解析による熱中症早期検知ウェアラブルシート

熱中症早期検知による事故防止と経営リスク回避

熱中症による休業4日以上
の疾病者割合



建築・工事・工場の管理会社（46万事業所以上）
H29の調査（島根県の報告書）
82.1%の現場で熱中症予防対策が不十分

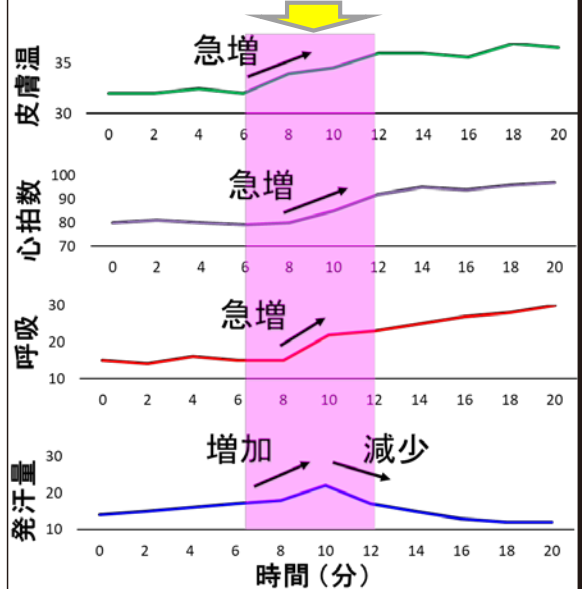
文章による行政指導（労働基準監督署）

システム構成（パッチセンサ+アプリ）



熱中症初期のバイタル変化

兆候を把握し、水分補給・休憩で予防



商品説明

全バイタル信号の同時計測



多種データの相関関係からより正確な判定

薄く柔らかくシームレス



センサシート：原価30円以下

競合優位性

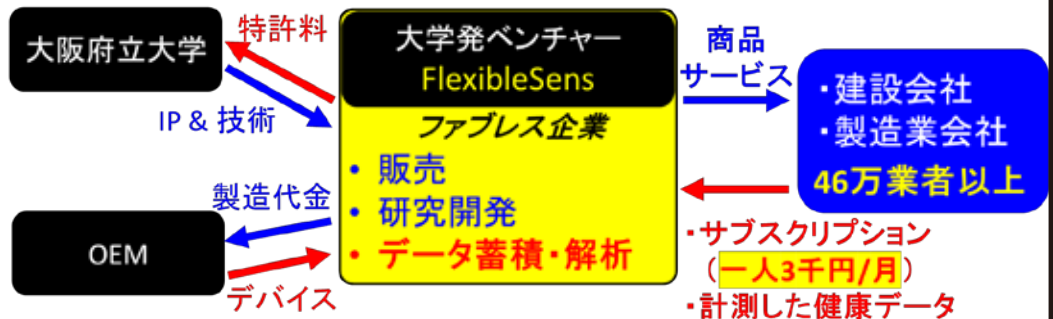
	従来のウェアラブル健康管理機器	本製品
心拍数	○	○
活動量	○	○
発汗量	△※1	○
呼吸数	×	○
皮膚温度	×	○

※1 発汗量計測が出来るものも一部あり

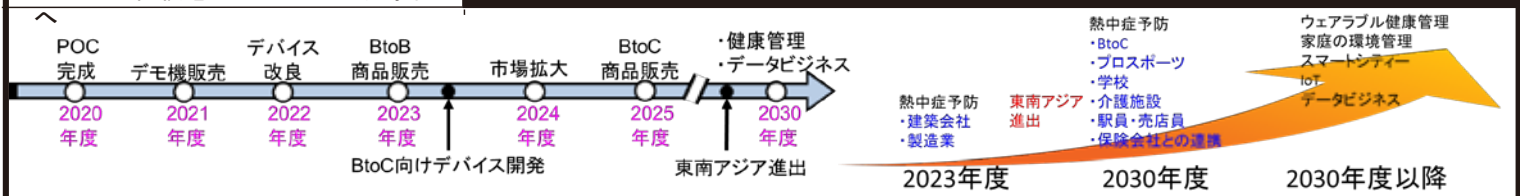
本商品の特長

- 「多種データを安価に測る」
- 多種データによる高精度解析
- 低価格のセンサシート
- データ蓄積を活かし次世代健康管理

ビジネスモデル



ロードマップ



BacSens

事業プラン名	迅速な食の安全確保を実現する細菌センサの開発
代表者	椎木 弘
連絡先	shii@chem.osakafu-u.ac.jp

BacSens

食の安心安全から健康と豊かな生活をサポート

出荷前検査で食中毒を未然に防ぐ

溶液試料から
出荷前の 20 分で迅速検出

検査コスト大幅削減

従来の細菌検査(培養法)の問題点

- ・ 一般細菌, 大腸菌, サルモネラ菌など菌種毎に培養(検査に人手がかかる)
- ・ 操作が煩雑で判定に最低 1 日かかる(検査結果が出荷後に判明)

特長

顧客

効果

溶液試料から簡単検査
20 分で検査できる
ポータブルセンサ

大腸菌 O157
サルモネラ菌
黄色ブドウ球菌
などの各菌種に対応



食品事業者(事業所数)

中食 スーパー・総菜等(14 万)

外食 レストラン等(85 万)

給食 病院・学校・企業(9 万)

他 製造・加工(25 万),
農畜水産業(6 万)など

計 139 万事業所

・コスト大幅削減

・品質・安全レベルの向上

・HACCP への対応

(2021 年義務化)

・新たな食品問題への対応
(フードテック, フードロスなど)

・新しい市場の開拓

ターゲット市場と事業計画

開発

資金調達
設備投資
特許出願

0
年目

事業者との
共同開発

中食

→

顧客

外食・給食

→

新規市場

1

代理店を通じたセンサの販売

2

安くして簡便なパッケージの提供

3

4

新規市場

自宅へ(離乳食や介護食)

フィールドへ(農畜水産業)

客船・遠洋船

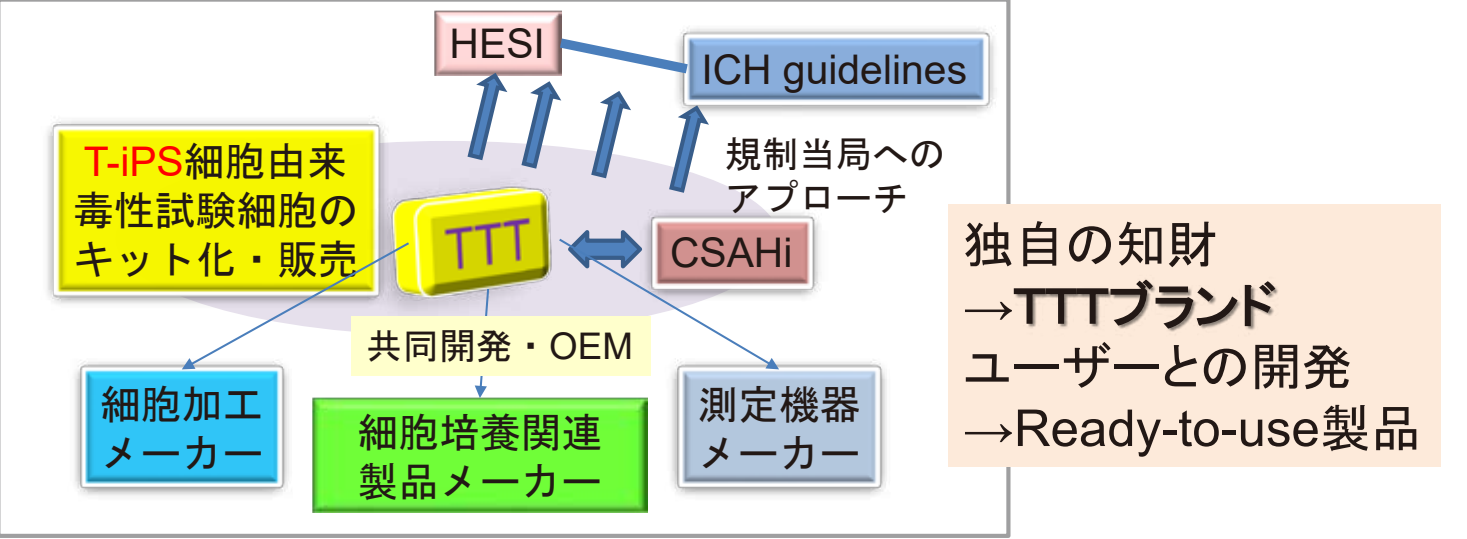
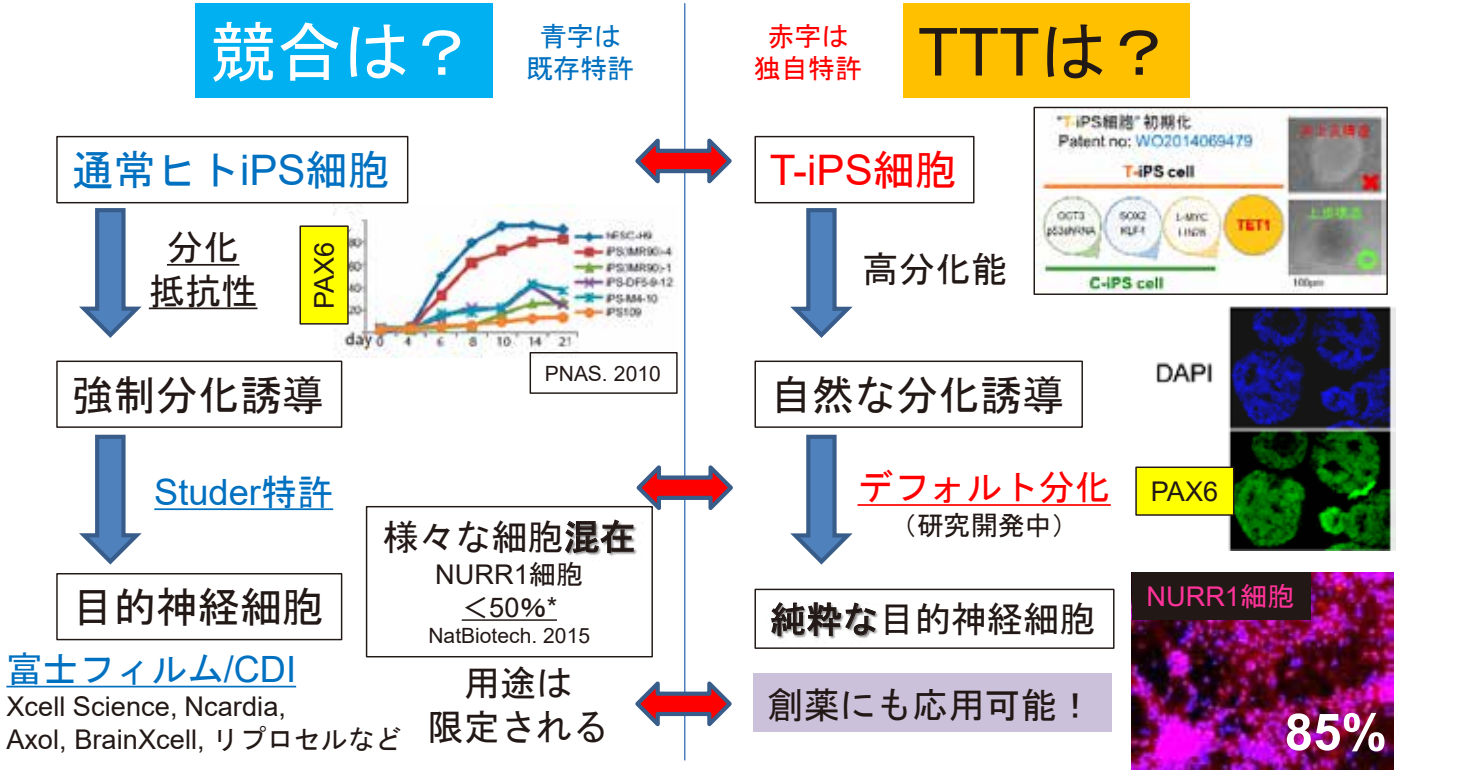
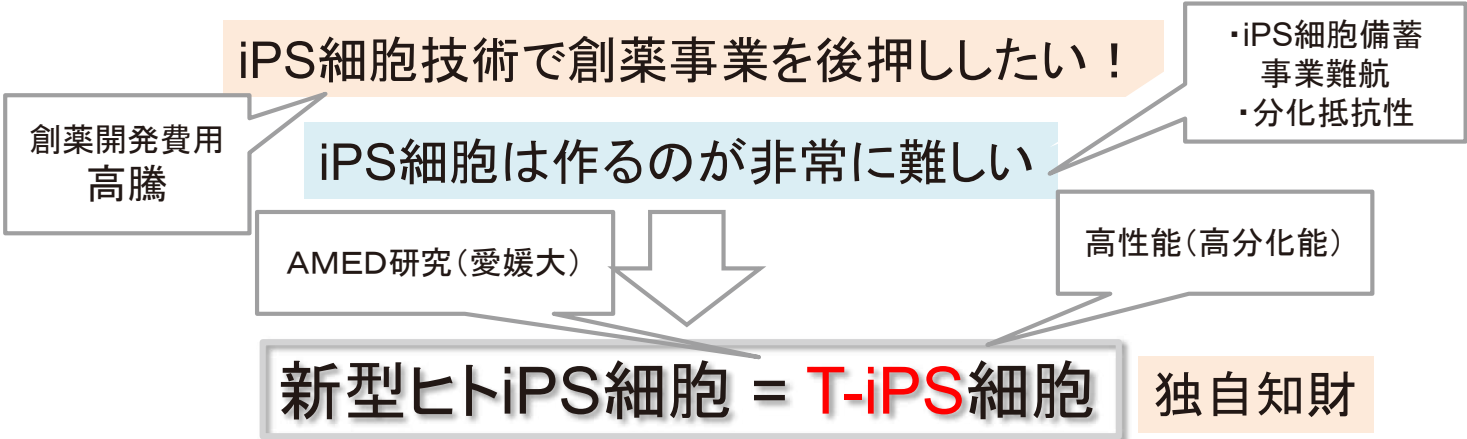
自衛隊・南極観測隊

宇宙ステーション

堺から世界へそして宇宙へ

TTT (Toxicity-testing using T-iPS cells)

事業プラン名	T-iPS細胞で創薬に革新を
代表者	加藤 英政
連絡先	kato.hidemasa.zz@ehime-u.ac.jp



事業プラン名	インフラを救います。行け！小型中性子源
代表者	井門 孝治
連絡先	koji.ikado@riken.jp



インフラを救います。行け！小型中性子源

事業概要

理化学研究所が開発している小型中性子源システムRANSを応用した革新的な非破壊検査技術を開発し、社会インフラ点検技術として、インフラ維持管理の市場へ参入します。

Pain

橋梁やトンネルなどの社会インフラの老朽化問題



事故要因
塩分・滞水

鉄筋腐食

橋梁検査

破壊法が主流

従来の塩分濃度評価

- ✓ 時間がかかる (2~3週間)
- ✓ サンプル検査しかできない
- ✓ 壊したくない



中性子でこのペインを解決！

- ◆ 物体の元素 (例えばCl) を非破壊で特定できる
- ◆ 透過力に優れ、物体内部に存在する水が見える

しかし、従来の中性子源は原子炉や大型加速器施設



中性子の現場利用は困難

Solution

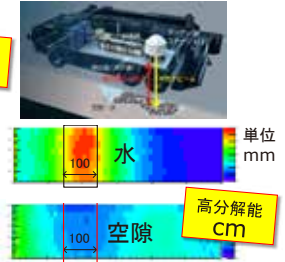
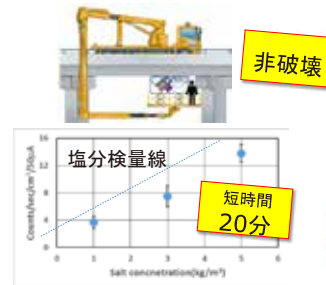
理研小型中性子源システム RANS



1. 極限まで小型化
2. 現場で使える安全設計
3. 現場測定を可能にする非破壊計測技術

塩分の検出技術

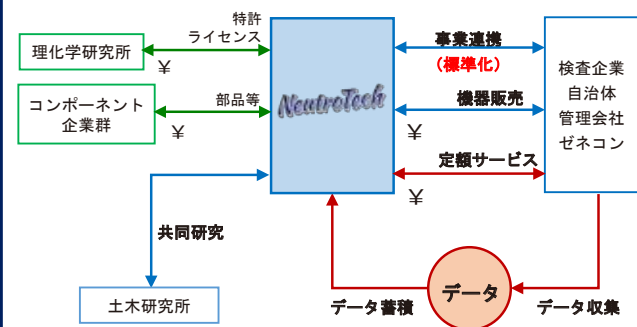
水や空隙の観察技術



事業計画



ビジネスモデル



将来ビジョン

月や火星の水資源探査に

人が住める月・火星に！
小型中性子源システムを宇宙探査へ

この技術は、月や火星の探査に応用可能で、宇宙関連事業者との連携を進めながら、RANSのさらなる小型化・軽量化を実現し、宇宙探査市場に参入します。



株式会社カーム・ラーナ

事業プラン名	健康寿命を伸ばす携帯型手術台と純国産人工股関節の社会実装
代表者	中村 順一(株式会社カーム・ラーナ)
連絡先	njonedr@chiba-u.jp



1. 事業の概要

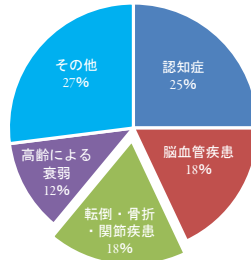
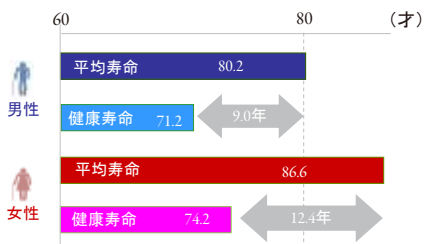
歩くということは健康寿命に関わります。人工股関節は失われた歩行機能を回復させる治療です。筋肉を切らない、患者に優しい手術を支援する携帯型手術台ルキュアは、手術成績の向上だけでなく医師不足の解消や経営改善につながります。日本人の骨格構造に適合した純国産人工股関節ミルフィーは、骨を温存し早期回復をもたらします。生涯歩き続けられる社会を実現し、国民の健康寿命を伸ばします。

2. 顧客と課題

健康寿命は平均寿命より10年短い！

歩けなくなると介護が必要になる！

人工股関節は歩き続けるために必要な手術



厚生労働省「厚生科学審議会地域保健健康増進推進部会資料」(平成26年10月)より作図。平均寿命は厚生労働省「平成25年簡易生命表」健康寿命は厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」

厚生労働省 平成28年国民生活基礎調査より作図

「ターゲット」は、患者と外科医と病院

患者にとって
早く治りたい！
キズが痛くないように！

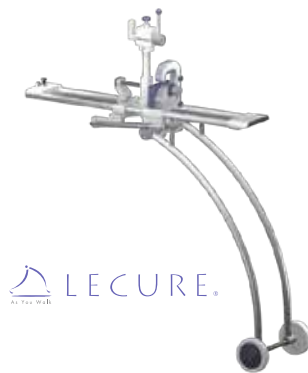
外科医にとって
手術が上手くなりたい！
助手が欲しい！

病院にとって
人件費を減らしたい！
収益を増やしたい！

3. ソリューション

① 携帯型手術台ルキュアを使って筋肉を切らずに手術する

② 日本人に適合した純国産人工股関節ミルフィー



LECURE



MIRFY

商品について詳しくは



商品① LECURE ルキュア 特許第5754680号 PCT出願済

商品② MIRFY ミルフィー 特許第6482047号

4. 社会実装にむけて

テスト販売を開始し、6つの病院と2つの企業に導入！

第18回ベンチャーカップCHIBA グランプリ

ちばビジコン2019 TENT幕張賞

未来2020 ファイナリスト

私たちは、令和1年11月1日創業の千葉大学発ベンチャー企業です。

Twitter始めました

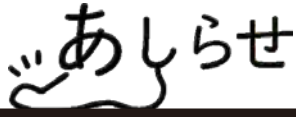


株式会社カーム・ラーナ

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央2-5-1千葉中央ツインビル2号館7階 Email: njonedr@chiba-u.jp



SensinGood Lab.



事業プラン名	あしらせ 視覚障がい者 単独歩行支援センスウェア
代表者	田中 裕介(代表), 千野 歩, 徳田 良平, 米谷 史
連絡先	yusuke14tanaka@gmail.com

Pain

現状のサービス

Existing services

設置されていない多くの道
Many roads without

点字ブロック
Braille blocks

日本では1000頭
1000 dogs in Japan

盲導犬
Guide dogs

利用制限
平均48時間/月
Average 48 hours / month of limitation

ガイドヘルパー
Guide helper

数が少なく、外出に制限がある
There are restrictions on going out because of few quantity

視覚障がい者“生の声”と課題

"Real voices" of visually impaired and issues



「道路の真ん中を歩いて、危険な思いをした」
"I felt dangerous walking in the center of the road."

「毎日決まった道でしか行動しない」
"I walk only regular road everyday."

「本当は一人で歩き回りたい、でも…
道に迷った時、人に話掛けられないから出掛けたくない」
"I actually want to walk around by myself, but...
I don't want to because I can't talk to people when I get lost."

危険や不安により、行動を拡げることが諦めている
Giving up expanding activity because of danger and anxiety

視覚障がい者が頼れるサービスが少ない ▶ 外に出るのを諦めてしまう

Solution

Solution prototype-02

コントローラー、バッテリー、GNSS (みちびき、GPSなど) 受信機
controller + Battery + GNSS receiver

3D型インソールデバイス
3D interface insole

6か所の振動モーター
6 Vibration Motors

製造単価 ¥37,000 (税別) 31UP5
Unit price ¥37,000 (tax excluded) 31UP5

How to Use

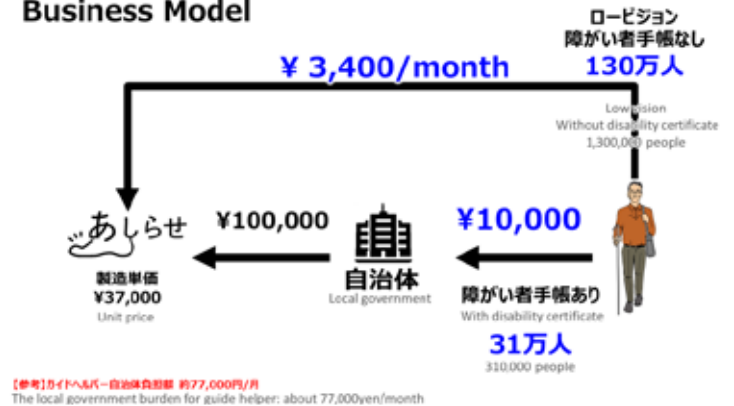


足内部の振動で 仮想的 に点字ブロックを再現 ▶ 安全な経路へと誘導

Deployment & Business



Business Model



ヘルパー料金を負担する自治体が顧客 ▶ 市場規模1000億円中35億円の売上を目指す

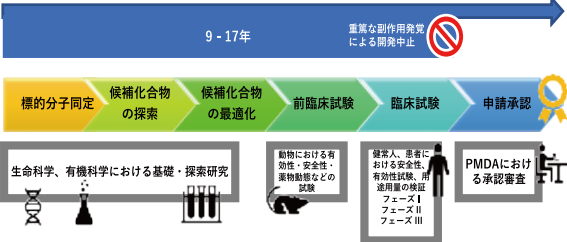
チーム Weavgent

事業プラン名	SNV 導入肝細胞パネルによる新薬候補の副作用予測システム
代表者	横内 裕二
連絡先	yokouchy@fmu.ac.jp

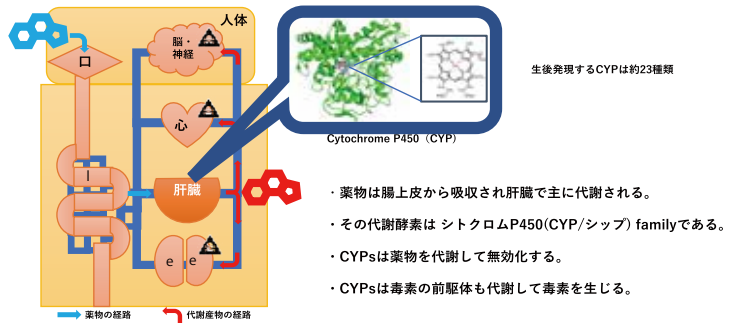
【課題】

創薬において、スクリーニング系で同定された新薬候補は、前臨床試験、臨床試験を経て上市される。しかし前臨床試験をパスした新薬候補の多く(80-90%)が臨床試験で重篤な副作用を示し開発中止に追い込まれる。

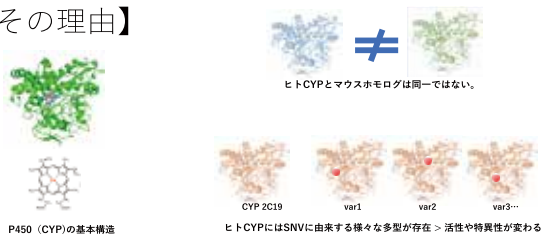
>> 莫大な時間 (10年以上) と資金 (500~1500億円) の無駄遣い!



薬物代謝酵素とその機能

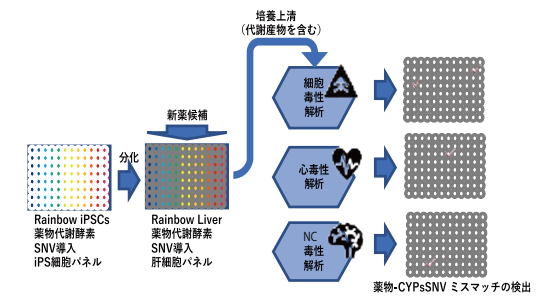


【その理由】



モデル動物の薬物代謝酵素群はヒトと異なるにも関わらず、動物実験の結果を重視しているためヒトの薬物代謝酵素には多型が存在し、薬物の代謝パターンには個人差があるので、>> ヒトの薬物代謝パターンを反映した新たな前臨床試験システムが必要である。

【目的】



【方法】

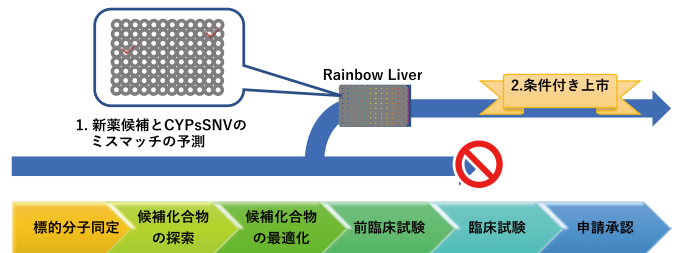


! 「Rainbow Liver」の作成方法

正常iPS細胞においてヒトの主な薬物代謝酵素遺伝子群 (CYPs) に、**一塩基置換法 One-SHOT** を用いて主要な一塩基多型 (Single Nucleotide Variant, SNV) を導入する。この薬物代謝酵素群-多型導入-iPS細胞パネルから肝細胞パネルを作成する。

【期待される成果とその意義】

! 本システムを用いて、前臨床-安全性試験を行うことで、新薬候補と薬物代謝酵素多型とのミスマッチ (重篤な副作用を生む組み合わせ) が予測可能になる。さらに本システムで前臨床-安全性試験を再試することで、治験段階で開発中止に追い込まれた新薬候補の「wb 付き」上市への道が拓かれる。



【顧客の動機とビジネス優位性】

! 顧客は大手製薬会社、前臨床試験請負会社。

! 顧客は、新薬候補の副作用を開発段階の早期に知りたいという理由で、当該サービスを利用 (購入) する。

! 加えて、我々は競合他社より様々な薬物代謝酵素の多型に関するサービスを **3倍早く提供できる** という理由により、より優位にビジネスを展開する。

GramEye

事業プラン名	安価で迅速な感染症検査であるグラム染色を世界の医療機関に広げる
代表者	山田 達也(大阪大学医学部医学科 4年)
連絡先	tatsuya.yamada.med@gmail.com



グラム染色を世界中の医療機関に届ける

医療的インパクト

1000万人

「癌」による死の患者数 < 「薬剤耐性菌」による死の患者数

2050年、薬剤耐性菌によって世界で1000万人の方が命を落とすとされている。*

* Know an Antibiotic Resistant Bacterium? 2014

グラム染色、抗菌薬適切利用へのインパクト

【救急病院での研究】
グラム染色ベースとガイドラインベースでの処方した場合の処方された抗菌薬の種類と比較
広域スペクトラムの抗菌薬処方量が減少していることが見られる

	グラム染色ベース N=208	ガイドラインベース N=208	P値
第一選択薬			
β内酰胺系	167	44	
中環系β内酰胺	40	77	
広域β内酰胺	30	93	
有用薬			
β内酰胺系 (β内酰胺系+β内酰胺)	186 (89.4%)	101 (91.8%)	0.2073
有用薬	14 (6.7%)	10 (4.8%)	0.9999
平均	8 (3.9%)	7 (3.3%)	0.6895
コスト			
薬料の前額	5405円	12895円	

Takashi Takashi. Open data based antimicrobial utilization pattern and cost compared with guideline practice, 2012

プロダクト

自動染色機
「getogram」

染色台の手を巧みことなく
きれいな標本が作れる

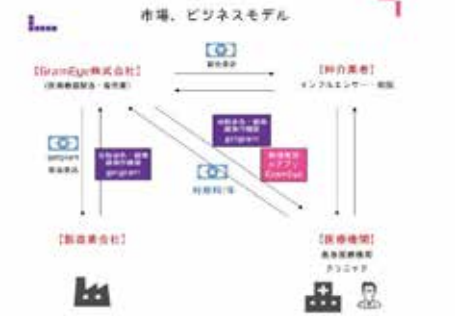


菌種判定AIアプリ
「GramEye」

機械学習を用いてスマホで
菌を判定するアプリ



市場、ビジネスモデル



【GramEye株式会社】(法人格取得済・発注先)
【製造業会社】
【医療機関】(発注先/販売先)
【独立業者】(サブスクリプション・販売)

薬剤耐性菌の増加



わずか20年で、肺炎球菌のペニシリン耐性が約50%上昇
誰しも薬剤耐性菌で命を落とす

2011 WHO 声明文
Combat Drug Resistance. No action Today. No cure Tomorrow

2016 国7 伊勢志摩サミット
感染症対策の3つの柱の1つに数えられた

* WHO 2014. Antibiotic Resistance. 2014

現状と課題

外来で菌種検査「グラム染色」がなされず
抗菌薬が処方されている

62%の救急で未導入
救急(二次救急)で24時間グラム染色を導入している割合*

0件のクリニックで導入
クリニックにグラム染色が導入されている割合
*クリニック60件に送った独自アンケート調査による

* 日本救急学会(JLEA) 救急診療ガイドライン2016年改訂版(救急診療) 2016年改訂版

2つのハードルと解決策



2つのハードルを自動化し
医療者の負担を削減する

競合分析

	GramEye	グラム染色 従来の	遺伝子検査	培養検査	菌種検査 (LAMP/LISA等)
迅速性	◎	○	△	×	○
検出	◎	○	×→○ →より迅速 検出可能	○	△
どこでも 使えらる	◎	×	×	×	○
得られる情報	○→◎ AI解析で決定 できる	○	◎ 菌種・薬性	◎ 菌種・薬性	○
確定診断	◎	○	◎	◎	◎
院内診断	△	×	◎	◎	◎

“外来”で活用可能

チームメンバー



山田 達也
大阪大学医学部医学科4年
医師 志望

東京大学大学院工学系研究科
博士課程2年次
研究員
研究分野: 人工知能・機械学習
研究内容: がん診断のための画像解析
研究業績: 国際会議で論文発表
研究賞: 優秀論文賞



山田 亮二
大阪大学医学部医学科4年
医師 志望

大阪大学大学院工学系研究科
博士課程2年次
研究員
研究分野: 人工知能・機械学習
研究内容: がん診断のための画像解析
研究業績: 国際会議で論文発表
研究賞: 優秀論文賞

SiB2018 Team-IJ

事業プラン名	カテーテル関連尿路感染症(CAUTI)の予防デバイス
代表者	松浦 康之
連絡先	yasuyuki.matsuura@gmail.com

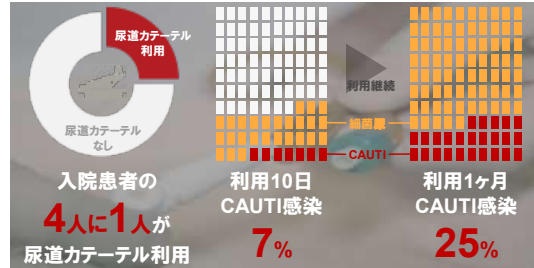


Hiroshima
Biodesign

背景

カテーテル関連尿路感染症(CAUTI)は、最も一般的な院内感染症の一つであり、世界中で毎年1,000万件以上のCAUTIが発生し、24万人以上が亡くなっており、経済的な負担は7,800億円を超える。

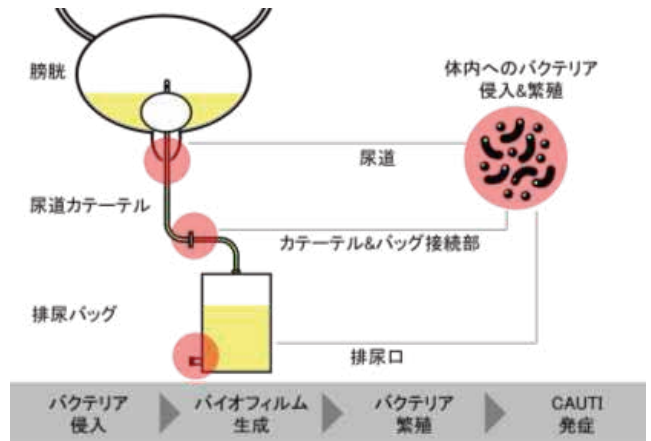
尿道カテーテル利用に伴うCAUTIの発生は避けることができず、1ヶ月でカテーテル利用者の100%が細菌尿となり、25%がCAUTIを発症するとされている。



課題

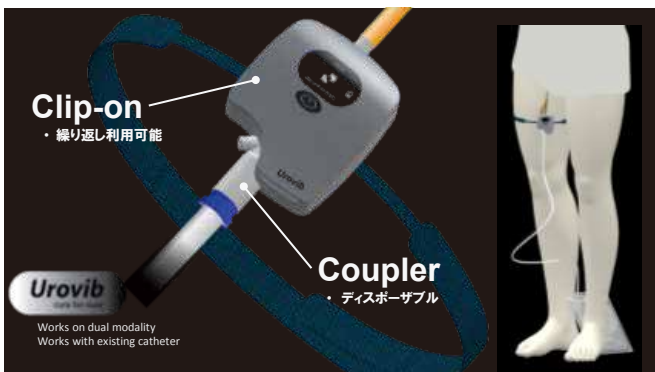
排尿を補助するため膀胱に尿道カテーテルを挿入、留置すると、カテーテルの外部表面、及び、内腔に沿って細菌が侵入しCAUTIを発症する。

現在、普及している予防法は、カテーテルと排尿バッグの閉鎖を守るなど清潔を保つための挿入手順であり、カテーテル内腔からの感染に対する有効な解決策は存在しない。



ソリューション

本デバイスは、尿道カテーテルと排尿バッグの間に接続され、紫外線による原因となるバクテリアの殺菌、及び、振動によるカテーテル表面へのバイオフィルム付着防止によって、効果的に感染を防止する。さらに、抗菌剤耐性菌発生の原因とならず、既存の尿道カテーテルや挿入手順を変更することなく利用可能なため、医療従事者への追加トレーニングも必要としない。



	UroShield™	提案製品	コーティングカテーテル	挿入手順(清潔)
CAUTI予防効果	○	◎	△	△
薬剤耐性菌の発生抑制	◎	◎	△	△
追加コスト(年間)	14万円	1.5万円	1万円	ほぼ0円
既存カテーテルとの共存	◎	◎	×	◎

カテーテル関連尿路感染症(CAUTI)により失われる多くの命を救います。

SCHOOL OF INTERNATIONAL
BIODESIGN



株式会社 RAINBOW

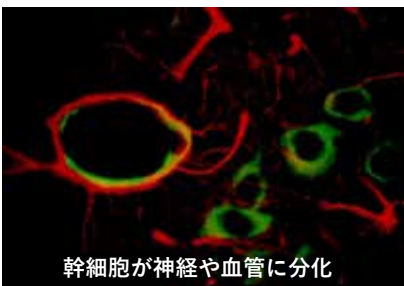
事業プラン名	オーダーメイド幹細胞製剤を用いて脳の病気を治す
代表者	川堀 真人(北海道大学脳神経外科、RAINBOW科学顧問)
連絡先	kawabori@med.hokudai.ac.jp



もういちど、自分の足で歩きたい
～幹細胞がかなえる未来の治療～

脳梗塞による麻痺

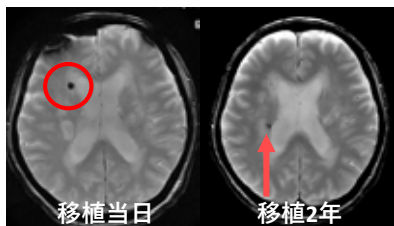
日本国内で年間30万人が脳梗塞を発症し、麻痺などによる重度の後遺症を抱えた患者は50万人います。しかし、現在、損傷された脳を治す治療法は存在せず、リハビリで現状を維持するのが精一杯です。多くの患者が治る日を待っています。



幹細胞が神経や血管に分化

幹細胞の可能性と現状

幹細胞は損傷した脳を修復させることが動物実験で証明されており、国内で脳梗塞に対して複数の治験が進行中です。しかし、最も患者数が多い慢性期（発症から時間が経った患者）に対する治験は行われていません。



移植当日
移植2年
幹細胞が投与部位(○)から遊走し、
脳梗塞周囲に生着している(↑)

自家骨髄幹細胞 (HUNS-001) の利点

HUNS-001は本人から取ったオーダーメイド幹細胞です。自分のものなので免疫排除されず、他人の細胞とは違い、脳内を移動し、投与後2年でも脳内に生着することが確認されるなど、長期間の効果が見込めます。また独自の脳内投与方法も大量の細胞を患部に送ることが出来、時間が経った患者に有効だと考えられています。

麻痺が治る世の中はすぐそこまで来ている

現在、亜急性期（発症して数ヶ月）を対象とした第1相治験が進行中です（2020/9終了予定）。その後、第2相治験は対象を社会的ニーズの高い慢性期患者に変更する予定です。第2相を成功させるための資金・事業会社との提携などのサポートを必要としています。



麻痺が治る世の中にした

NanoEX

事業プラン名	連続フローナノ結晶合成技術によるペロブスカイト量子ドット製造
代表者	増原 陽人(山形大学)
連絡先	TEL:0238-26-3891 Email : masuhara@yz.yamagata-u.ac.jp

目的：第5移動通信システムの普及により到来する超ブロードバンド時代を精密量子ドット（ナノ粒子）合成技術によってサポートする

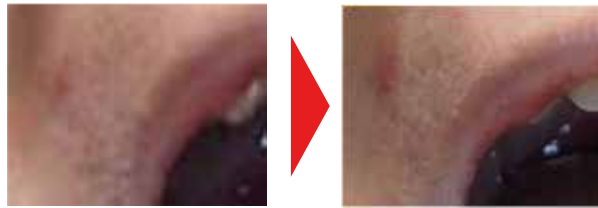
《課題》超ブロードバンド時代の到来に対応したディスプレイが求められているが・・・

遠隔支援システムに対応するディスプレイ性能が達成できてない



遠隔医療モデル

量子ドットディスプレイに求められる性能



2K

8K

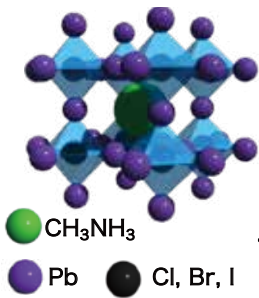
- ① 高い解像度
- ② 広い色域 (色再現性)

→量子ドットディスプレイは遠隔医療診断に最適

《技術シーズ》ディスプレイ向け発光材料の提供により、ディスプレイの飛躍的性能向上を目指す

→連続フロー合成によるペロブスカイト量子ドットの大量製造技術

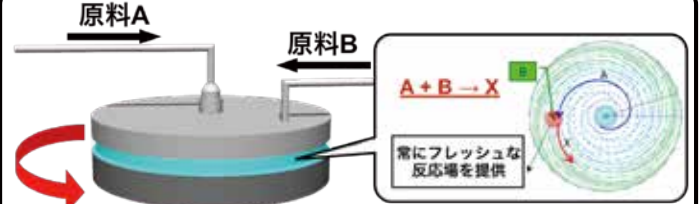
ペロブスカイト量子ドット



- ・高い発光量子収率 (PLQY)
→高輝度・高効率
- ・発光波長のチューニングが容易
→容易な色相制御が可能
- ・発光波長の半値幅が狭い
→彩度の向上, 広色域化
- ・溶液プロセスでの作製が可能
→印刷技術による高精細化

ディスプレイの発光材料として非常にマッチ

薄膜式マイクロリアクター



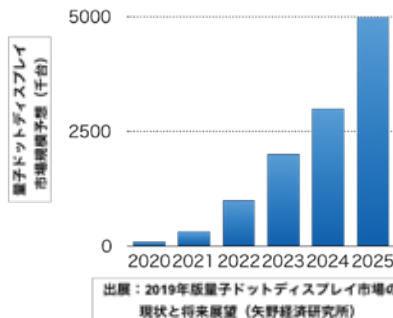
- ・容易な大量合成が可能
- ・サイズ均一且つ単分散な量子ドットが作製可能

有機・無機問わず、幅広い材料の量子ドットが作製可能

まずは、多種多様なペロブスカイト量子ドットをラボスケールの合成条件・高性能のまま大量合成に！！

《市場規模・事業展開》

量子ドットディスプレイ市場は2022年を目前に急成長
→2025年には約**1,125億円**の市場に成長



量子ドットの需要は急増

量子ドットの需要が拡大する前に
起業する事で、市場を席巻！！

《将来展望》 2022年下期上市

ペロブスカイト量子ドット

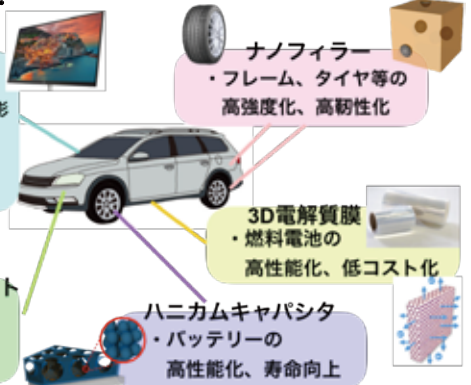
様々な分野に量子ドット・ナノ粒子化技術を展開
車を例にすると・・・

量子ドットディスプレイ

- ・透明ディスプレイによるフロントガラスへの情報投影 (カーナビ等)
- ・3Dディスプレイによるメーター類の映像化

ペロブスカイト量子ドット

- ・センサーの高性能化
- ・ライト類の性能向上



**『すべての技術をナノ発信で！』をスローガンに
ナノテクノロジーで高度情報化社会の発展を支えます**

セミファイナリストチーム資料

NEDO TCP 2019 セミファイナリストチーム一覧

テルミナ	33
Ubitone	34
きみと	35
CanDy Platinum	36
ZeroHachi (ゼロハチ)	37
合同会社山本技術研究所	38
Edible Microsystems	39
OptiWave	40



テルミナ

事業プラン名	不要材と空気から創る動物タンパク質-食餌及び食事の素材を提供
代表者	相川 順一
連絡先	aikawa@riken.jp

「タンパク質危機を救うシロアリ粉末」を事業化します。

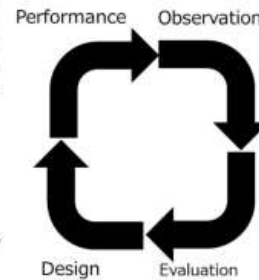
＜用途＞
魚粉代替
ヒト向け

コア技術/Core technology

シロアリを増やす技術（開発中）。



＜オオシロアリ＞
家を食べない。
大きい。



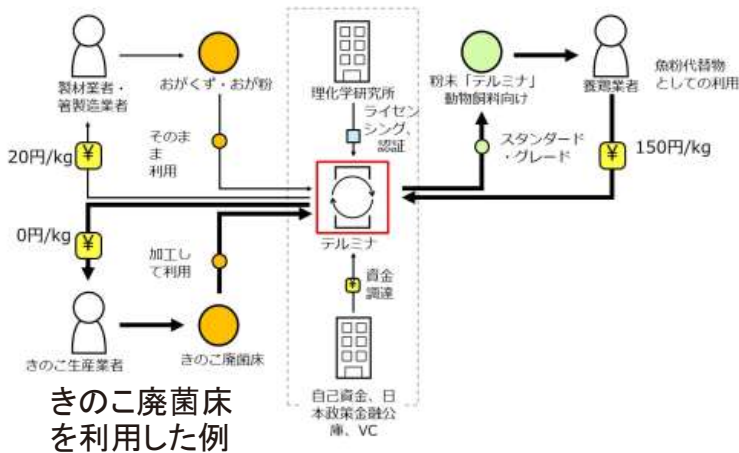
新たなパラメーターでシロアリ成長を高速に検出する（独自技術）。



シロアリ粉末の機能性

5年目までのビジネスモデル/Business Model

農林水産業の廃棄物を利用して、魚粉代替物を生産、販売する。



＜5年目までのビジネスモデルの補足＞

原料としての可能性

きのこ廃菌床、稲わら、もみ殻、竹、みかん搾り汁残渣

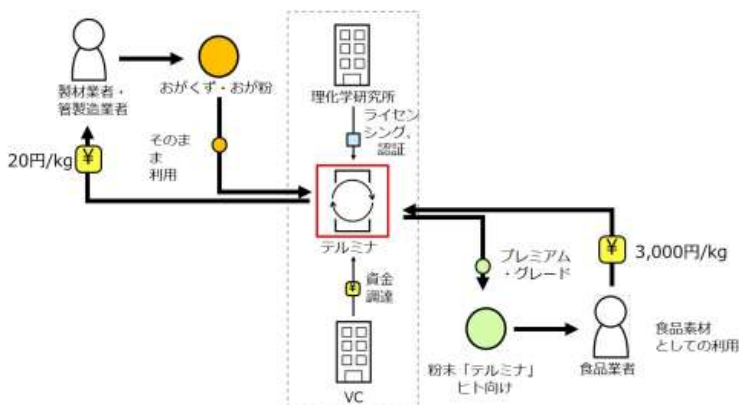
販売先としての可能性

養鶏業者、養豚業者、養殖漁業者

地産地消型のタンパク質飼料を提供する。

6年目以降のビジネスモデル/Business Model

おがくず・おが粉を購入して、ヒト向けタンパク質素材を生産、販売する。



メンバー

＜iCEO、オペレーション、会計・財務、マーケティング＞

相川 順一

国立研究開発法人理化学研究所 研究員
（～2019.09）JST「プログラム・マネージャーの育成・活躍推進プログラム」第2ステージ修了：昆虫食と培養肉研究のマネジメント

＜技術開発＞

国立研究開発法人 研究員
高等専門学校 教員

Ubitone

事業プラン名	Ubitone
代表者	山蔦 栄太郎
連絡先	https://ubitone.com/

Ubitone

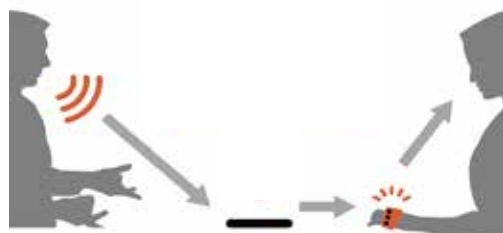
盲ろうという障害を社会から無くしたい



障がいとは人間ではなく、未成熟な社会や環境の側に有ります。

近視という障がい眼鏡によって個性が変わったように、

Ubitone（ゆびとん）は盲ろうを個性と考えられるような社会を創ります。



当製品の詳しい情報、
お問い合わせはこちら
<https://ubitone.com>
代表：山蔦栄太郎



きみと

事業プラン名	姿勢計測/3D計測で美しい姿勢を保つ靴での健康ソリューション
代表者	東 有紀
連絡先	tonjiro@outlook.com

きみと活動紹介

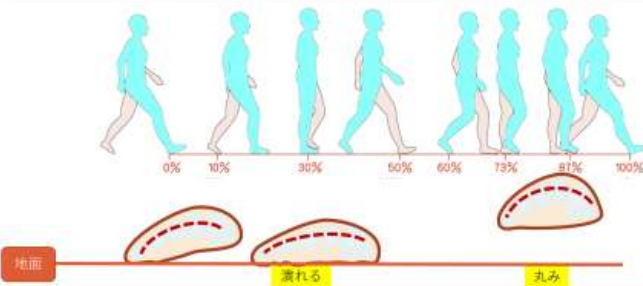


足のゆがみで損なう美しい姿勢と健康



1日の大半体重を支える「靴」を通じたペインの解決

足は形状変化する



足の「変化に追従」し、「変形を予防」する靴づくり

想定市場規模

単価:30万円~	世界市場: 4兆円 日本市場: 1千億円	ハイブランド 購買層から着手
単価:6.5万円~	世界市場: 7兆円 日本市場: 2千億円	
単価:3.0万円~	世界市場: 3兆円 日本市場: 1千億円	
単価:1.5万円~	世界市場: 2兆円 日本市場: 8百億円	

※2017年ポルトガル皮革協会の靴消費データと菊池の婦人注文靴販売から算出

婦人注文靴販売のみの潜在市場算出で**世界14兆円**

直近の計画と必要な支援

- 内容:
 - 女性20名のデータ収集し、試作開発/技術検証と靴の試用評価を行う。
 - 試作開発: 姿勢AI追加学習+アルゴリズム実装+靴型3D出力+3D計測装置開発
- 期間: 10カ月(試作開発4か月+準備期間3か月+試用評価3か月)
- コスト: 1,290万円(+事業化700万円)
- 協力: 研究一九大 竹之内和樹准教授、靴製作一靴工房ミネルバ他2社、試用評価一スリムビューティハウス(予定)

ミス日本



- 事業展開でご協力をお願いします:
 - 部材開発、靴を使ったIoT共同開発、保険事業のリワードに...

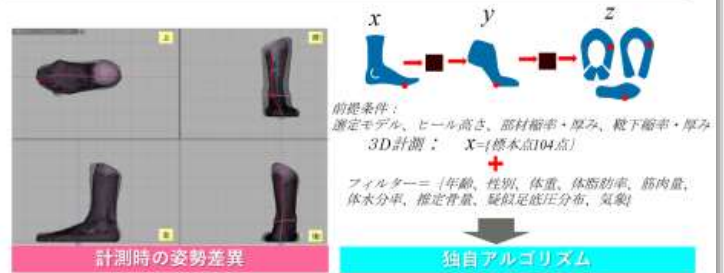
来年度NEPを申請予定!!

合う靴には「3次元計測」というアプローチ

多数靴を揃えて検索 返品/交換可 ZOZO LOCONDO デパート	サンプル細かく 受注オーダー Z88 ONWARD KIBERA 88388	所持靴型検索+足型製作 受注オーダー Dream-GP 八幡 菊池	個別部品加工&製作 受注オーダー 既製品 きみと
既製靴		セミオーダー	フルオーダー
大量生産用		自分用	

共通する誤解: 「機械で足を測れば正確」

「美しい姿勢を保つ」を実現するコア技術



ノウハウ: 美姿勢で足計測+物体間対応アルゴリズム

「きみと」寄り添うソリューションへ

加齢やライフイベントでの変形にも対応
ライフタイムソリューション (データ管理)

- 靴の新調/調整/修理/ケア
- 足/爪/ボディのケア
- 歩行イベント

売り切りでない多様なビジネスモデル展開

きみとメンバー紹介

大ききみと
現在40人



東 有紀

6師+αに学び、靴型から婦人靴を製作出来るようになる。
3D画像研究で九大の芸術工学修士卒。富士フイルム/ソニーで約20年IT技術者経験後、独立。Supervisor、CTO直下経験有。



村田 教子

看護師&オーパ-フスレーガー
日本フットケア学会認定フットケア指導士
東京フットケア技術講師
足の処置室を開業。



東 大輝

東京高専電子科3年
C++/Pythonでシステムを組む。

ZeroHachi (ゼロハチ)

事業プラン名	世界の大气汚染を解決する排ガス浄化システムの設計支援ビジネス
代表者	野原 徹雄(東海大学研究員)、落合 成行(東海大学教授)
メンバー	高橋 俊(東海大学准教授)、砂見 雄太(東海大学講師)、杉山 直輝(東海大学M2)
連絡先	nt866578@tsc.u-tokai.ac.jp (野原)



背景

新興国の開発が加速
↓
電気インフラ未整備
過酷な使用条件

電動化NG



トラック・産業機械用
ディーゼルエンジンの需要急増

産業機械用ディーゼルエンジンの需要予測



新興国は排ガス規制がない
排ガス浄化システムなし

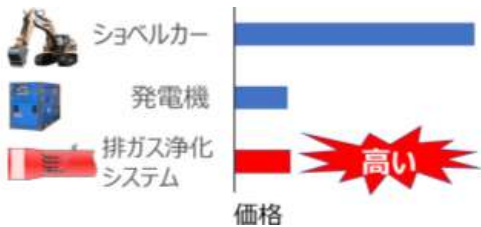


大気汚染が深刻化



課題

- ① 新興国向けに安価な排ガス浄化システムの要望
- ② 尿素水噴霧による排気管つまり 新興国にはメンテ工場なし
- ③ 乗用車と違う多様な仕様 膨大な開発工数

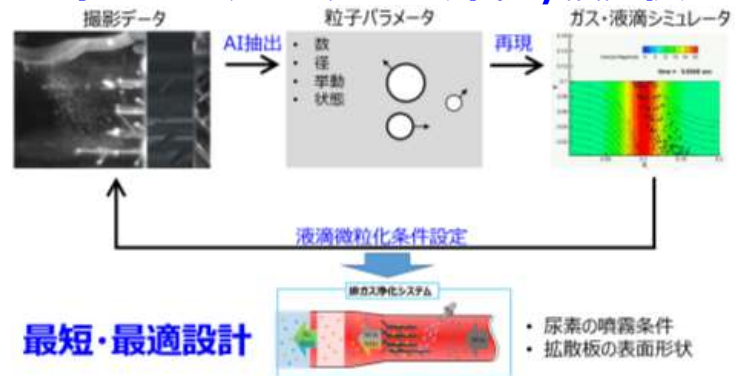


当社サービス

- ① 排気管内のガス流れ・液滴衝突の見える化 **世界初！ミリ秒以下の高速画像撮影**
- ② 撮影データから用途に応じた最適排気管設計 **AI抽出・シミュレータで工数低減/蒸発促進**



排気管内ガス・液滴
流れ可視化



- ① ガス・液滴流体を超高速可視化
- ② 表面微細加工による液滴微粒化
- ③ 個人PCで使用可能なAI認識+簡易流体ソフトで大気汚染を解決！

合同会社山本技術研究所

事業プラン名	けものマッピングシステム-野生動物と人のSymbio-Tech(共生技術)-
代表者	山本 圭介(合同会社山本技術研究所)
連絡先	info@yamamoto.watson.jp

野生動物問題が解決しない背景

- ①そもそも「実用的」に何頭いるかがわからない
- ②環境によって動物の密度も違う
- ③経験と勘が中心で体系的技術と対応人材が不足

例) 対策を担う自治体担当職員

- ・複数の担当業務
- ・慣れない対策技術
- ・習熟後の異動 (平均3、4年)

現場対策の計画に実効性ない

「見える」ことで「予測」できるメリットとは何か

経験と勘の捕獲
捕獲できるか不明
→管理ではない

UAVで観測できることで
予測が立てられ
計画的に管理対策が進められる
→資源管理へと転換

TOTAL: 3

Deer

Deer

捕獲推奨エリア

蓄積データからのML活用
疫病対策
資源活用
GISインフラ

ここにいるよ!
〇頭いるよ!

ここで獲ると効率いいよ!

第1フェーズ「検出・地図化」
基盤「野生動物生態」
現場で培ってきた経験と技術

第2フェーズ「分析・予測」
資源管理技術の確立

第3フェーズ「展開・拡大」
こんなこともできちゃうよ!

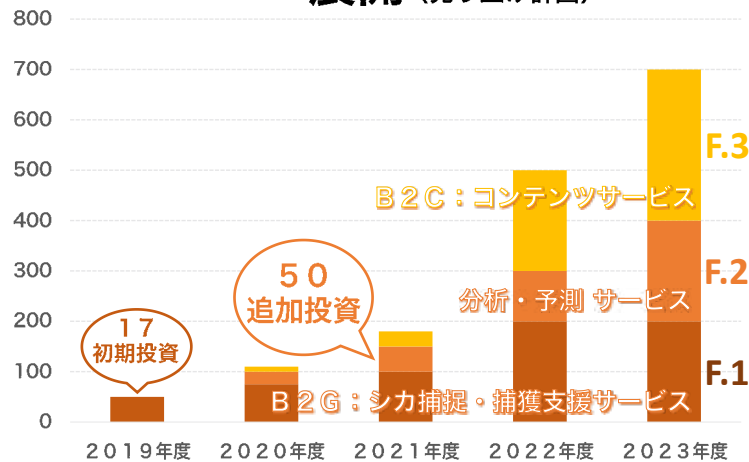
日本初!
位置捕捉 (フェーズ1) をした捕獲に成功

2019年4月

リスク未然回避で
安心共生社会へ!

単位: 百万円

展開 (売り上げ計画)



さらなる展開

安全な登山・農作業

捕獲個体 → ジビエ業界へ (生態学的に適切な供給)

ペット捜索・ペットフード

保険 (鉄道・道路)

野生動物公園 (日本・海外)
<https://www.nps.gov/index.htm>

自然観察・動物観察の体験ツアー

人間 vs ソウ (インド)

海外問題解決

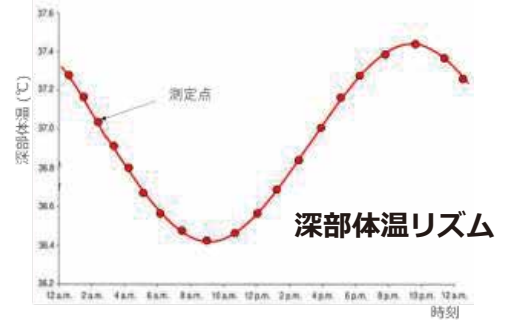
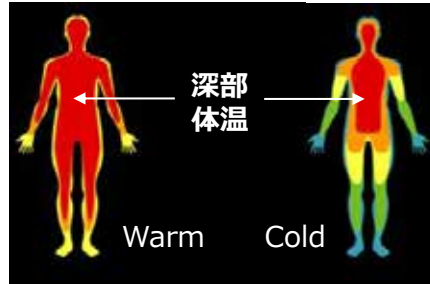
人命救助

Edible Microsystems

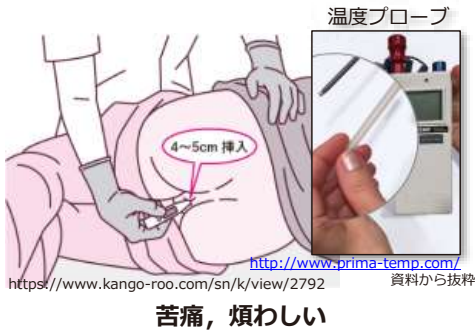
事業プラン名	安全安心の「飲む体温計」によるヘルスケア
代表者	吉田 慎哉
連絡先	s-yoshida@mems.mech.tohoku.ac.jp

製品：胃酸で発電・充電する錠剤サイズの「飲む体温計」

できること：深部体温とリズム(体内時計)を正確かつ簡単に測定



従来の測り方



カプセル型飲み体温計
(日本では未承認)

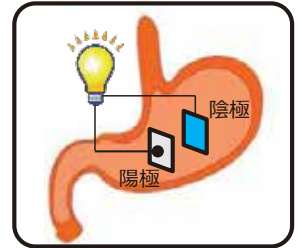
Celsius
Performance
直径8.9 mm
長さ17.7mm
\$~60 / €60

ボタン電池搭載
→危険、劣化の問題あり
大きい→残留リスク大
高価

安全安心の「飲む体温計」



錠剤サイズ：閉塞・狭窄
の心配はありません。



胃酸発電・充電：有害なボタ
ン電池なし。安全・安心・低
環境負荷。充電器不要。

ターゲット①：概日リズム睡眠障害の診断、治療支援

体内時計がくるってしまう病気（推定患者数 日本：~100万人 米国：300~500万人）



問題：病気と認識・診断しにくい
重症化すると入院一か月もありえる
治しても再発しやすい

なぜならそもそも体内時計を「簡単か
つ正確に」測定できる手段がないから

我々の製品を使うことで、期待
されるアウトカム

- ・誤診率の低下
- ・確定診断までの期間の短縮
- ・治療、入院期間の短縮
- ・再発率の低下
- ・患者さんのQOL向上

国内市場規模
~80億円/年

ターゲット②：ヘルスケア、健康増進、熱中症防止など

大量生産が可能な構造を
発明

売価：1個100円も
達成可能

日常的に深部体温や基礎体温、体内時計をモニタリング

ユーザー 健康が不安…
より健康でいたい!

データビジネスへ

排卵周期
低体温症
熱中症
認知症
うつ病
神経症
感染・炎症
etc.



国内市場規模
>300億円/年



事業プラン名	脳波フィードバック技術を用いた認知機能改善トレーニングの提供
代表者	竹内 啓人
連絡先	takeuchi.hiroto.697@s.kyushu-u.ac.jp



Problem

認知機能低下が問題で
高齢者が通常の生活を送れない

認知症有病者数(日本):

約460万人

軽度認知障害有病者数:

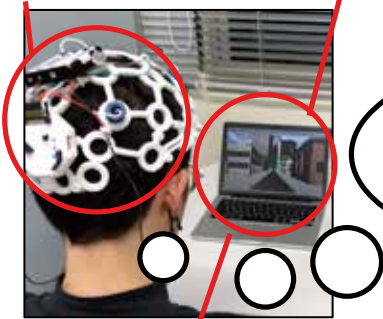
約400万人

➡ 高齢化に伴う認知機能の低下が大きな課題

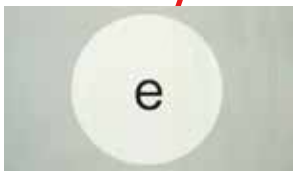
厚生労働省の推計, 2012年

Our System

ゲームや脳トレ × ニューロフィードバック



スピードが速くなるよう考える, etc.

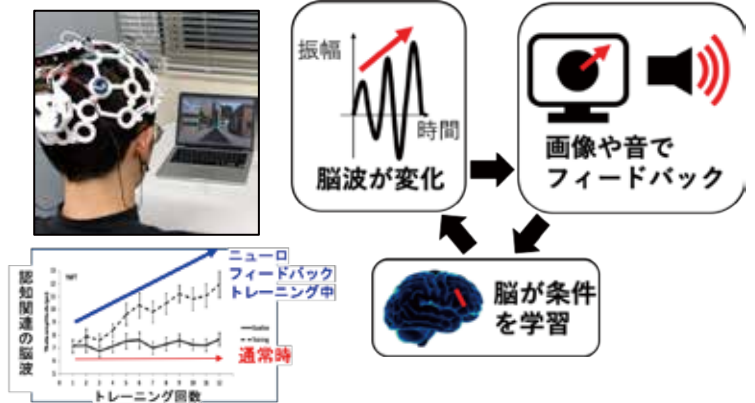


円の大きさに反映
脳トレ(短期記憶課題)と同時に行う

OpenBCI Ultracortex, OPENBCI_GUI, Unity使用

Solution

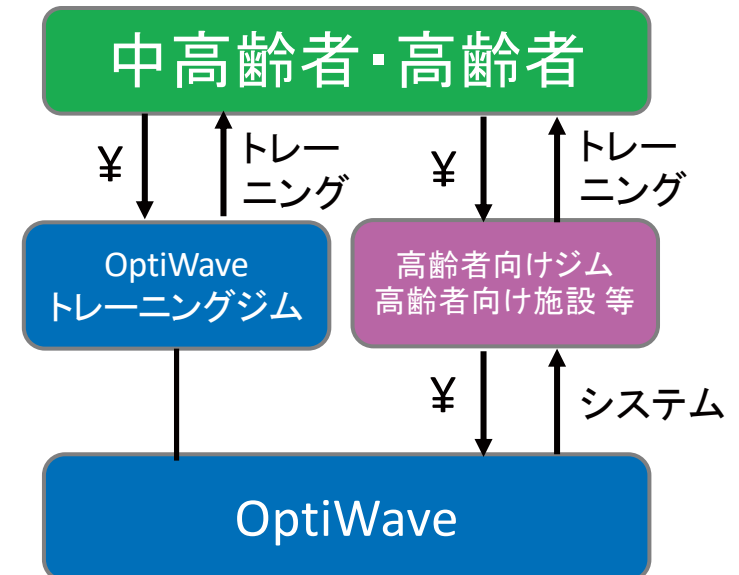
ニューロフィードバック(脳波フィードバック)による認知機能改善トレーニング提供



➡ 脳波の変化(脳活動の変化)で認知機能の維持・改善へ

J. Wang, 2013

Business Model



脳科学技術を活用し
認知機能低下予防へ

JSTのベンチャー支援事業

大学等※発ベンチャーの“起業前”支援

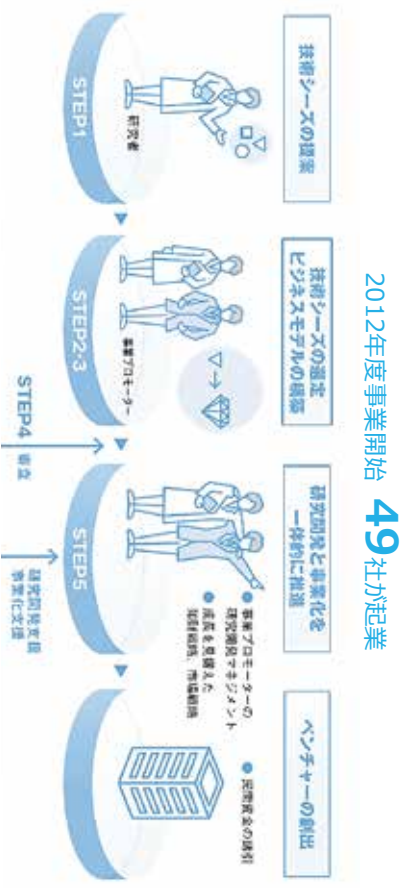
※国公立大学、国公私立高等専門学校、
大学共同利用機関法人、独立行政法人
(国立研究開発法人含む) 等のいづれかに
該当する機関

(2020年1月時点)

START

大学発新産業創出プログラム

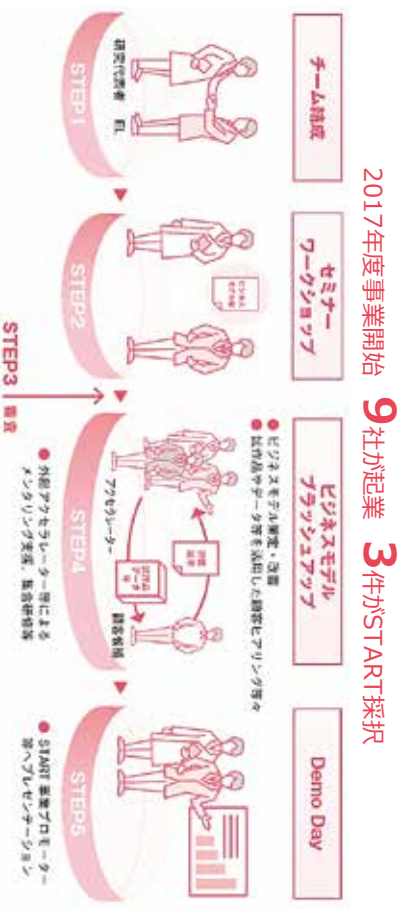
目的： 起業に向けた研究開発・事業化
期間： 原則1～3年度
予算： 1～2年度で5,000万円/年
2～3年度で3,000万円/年
(直接経費)



SCORE

社会還元加速プログラム

目的： 起業の可能性検証
期間： 原則1年度
予算： 500万円/年 (直接経費)



JST研究開発成果実用化ベンチャーへの“出資等”支援

(2020年1月時点)

SUCCESS

出資型新事業創出支援プログラム

ベンチャー企業に対して直接出資と
ハンズオンによる支援を行います

支援対象となるベンチャー企業

- ・JSTの研究開発成果を有する
- ・設立から概ね5年以内

出資の上限：

- ・出資比率：原則総議決権の1/2未満
- ・出資金額：1社につき最大5億円



START SCORE

産学連携展開部 START 事業グループ
TEL : 03-5214-7054 E-mail : start@jst.go.jp
URL : <https://www.jst.go.jp/start/>

SUCCESS

起業支援室
TEL : 03-6380-9014 E-mail : entre@jst.go.jp
URL : <https://www.jst.go.jp/entre/>

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

MEMO



お問い合わせ

株式会社日本総合研究所 NEDO TCP事務局

〒141-0022 東京都品川区東五反田2-18-1

Email:info@nedo-tcp.jp 03-6833-6575(今川) / 06-6479-5519(奥田)

https://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100103.html

